

## 平成17年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

### 1. 基本方針

介護保険法改正に伴い、介護報酬も大幅な見直しが行われ、施設経営も厳しさが増してきたものの、安定した法人運営と経営を両立させるべく、また、充実したものにするため関連機関との連絡調整を密にしながら、定期的な理事会を含め年6回開催し、評議員会も年3回開催するなど役員自ら積極的に参画してきた。

また、本年度の目標でもある各事業所が特色を出せるよう、働きやすい環境整備の推進してきた。

### 2. 事業内容

#### (1) 理事会の開催状況

回数	開催日	出席(人)		内 容
		理事	監事	
第1回	平成17年 5月26日	5	2	報告第1号 平成16年度第7回理事会議事録の確認について 報告第2号 平成16年度第7回理事会以後の諸報告について 議案第1号 平成16年度社会福祉法人いいたて福社会事業報告について 議案第2号 平成16年度社会福祉法人いいたて福社会一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福社会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について
第2回	9月28日	7	2	報告第1号 平成17年度第1回理事会議事録の確認について 報告第2号 平成17年度第1回理事会以後の諸報告について 報告第3号 職員人事異動について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について 議案第2号 個人情報に係る諸規程等の制定について 議案第3号 居住費(滞在費)及び食費の利用料の改定について
第3回	11月24日	6	2	報告第1号 第2回理事会議事録の確認について 報告第2号 第2回理事会以後の諸報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会給与規則の一部変更について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福社会パートタイマーの就業規則の一部変更について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福社会パートタイマーの育児休業に関する規程の制定について
第4回	12月26日	7	2	報告第1号 第3回理事会議事録の確認について 報告第2号 第3回理事会以後の諸報告について 議案第1号 平成17年度本部会計補正予算について 議案第2号 平成17年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第3号 平成17年度いいたてデイサービスセンター会計補正予算について 議案第4号 平成17年度いいたてヘルパーステーション会計補正予算について 議案第5号 平成17年度いいたて在宅介護支援センター会計補正予算について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福社会経理規程の一部変更について 議案第7号 指導指針適用に伴う予算の編成について
第5回	平成18年 3月17日	6	2	議案第1号 施設長の任用について 議案第2号 特別養護老人ホームいいたてホーム改修工事請負契約について 議案第3号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約の締結について

第6回	3月29日	7	2	報告第1号 平成17年度第4回理事会議事録の確認について
				報告第2号 平成17年度第4回理事会以後の諸報告について
				報告第3号 平成18年度職員人事異動内示について
				報告第4号 平成18年度職員採用について
				議案第1号 平成17年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について
				議案第2号 平成17年度いいたてデイサービスセンター会計補正予算について
				議案第3号 平成17年度いいたてヘルパーステーション会計補正予算について
				議案第4号 平成17年度いいたて在宅介護支援センター会計補正予算について
				議案第5号 飯館村地域包括支援センター事業の受託について
				議案第6号 平成18年度社会福祉法人いいたて福祉事業計画(案)について
				議案第7号 平成18年度社会福祉法人いいたて福祉一般会計収支予算(案)について
				議案第8号 社会福祉法人いいたて福祉会定款の一部変更について
				議案第9号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について
				議案第10号 社会福祉法人いいたて福祉会就業規則の一部変更について
				議案第11号 社会福祉法人いいたて福祉会育児休業に関する規程の廃止について
				議案第12号 社会福祉法人いいたて福祉会介護休業及び介護短時間勤務に関する細則の廃止について
				議案第13号 社会福祉法人いいたて福祉会パートタイマーの育児休業に関する規程の廃止について
				議案第14号 社会福祉法人いいたて福祉会育児・介護休業等に関する規則の制定について
				議案第15号 社会福祉法人いいたて福祉会印章取扱規程の一部変更について
				議案第16号 社会福祉法人いいたて福祉会いいたて在宅介護支援センター処務管理規程の一部変更について
				議案第17号 社会福祉法人いいたて福祉会飯館村地域包括支援センター処務管理規程の制定について
				議案第18号 社会福祉法人いいたて福祉会経理規程の一部変更について
				議案第19号 社会福祉法人いいたて福祉会就業規則の一部変更について
				議案第20号 社会福祉法人いいたて福祉会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について

## (2) 評議員会の開催状況

回数	開催日	出席(人)		内 容
		評議員	監事	
第1回	平成17年5月26日	13	2	報告第1号 平成16年度第3回評議員会議事録の確認について 報告第2号 平成16年度第3回評議員会以後の諸報告について 議案第1号 平成16年度社会福祉法人いいたて福祉事業報告について 議案第2号 平成16年度社会福祉法人いいたて福祉一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について
第2回	12月26日	10	2	報告第1号 平成17年度第1回評議員会議事録の確認について 報告第2号 平成17年度第1回評議員会以後の諸報告について 報告第3号 職員人事異動について 議案第1号 平成17年度本部会計補正予算について 議案第2号 平成17年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第3号 平成17年度いいたてデイサービスセンター会計補正予算について 議案第4号 平成17年度いいたてヘルパーステーション会計補正予算について 議案第5号 平成17年度いいたて在宅介護支援センター会計補正予算について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福祉会経理規程の一部変更について 議案第7号 指導指針適用に伴う予算の編成について

第	平成18年	13	2	報告第1号 平成17年度第2回評議員会議事録の確認について
---	-------	----	---	-------------------------------

3 回	3月29日		報告第2号 平成17年度第2回評議員会以後の諸報告について 報告第3号 平成18年度職員人事異動内示について 報告第4号 平成18年度職員採用について 議案第1号 平成17年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第2号 平成17年度いいたてデイサービスセンター会計補正予算について 議案第3号 平成17年度いいたてヘルパーステーション会計補正予算について 議案第4号 平成17年度いいたて在宅介護支援センター会計補正予算について 議案第5号 飯館村地域包括支援センター事業の受託について 議案第6号 平成18年度社会福祉法人いいたて福祉事業計画(案)について 議案第7号 平成18年度社会福祉法人いいたて福祉一般会計収支予算(案)について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福祉定款の一部変更について 議案第9号 社会福祉法人いいたて福祉給与規則の一部変更について 議案第10号 社会福祉法人いいたて福祉就業規則の一部変更について 議案第11号 社会福祉法人いいたて福祉育児休業に関する規程の廃止について 議案第12号 社会福祉法人いいたて福祉介護休業及び介護短時間勤務に関する細則の廃止について 議案第13号 社会福祉法人いいたて福祉パートタイマーの育児休業に関する規程の廃止について 議案第14号 社会福祉法人いいたて福祉育児・介護休業等に関する規則の制定について 議案第15号 社会福祉法人いいたて福祉印章取扱規程の一部変更について 議案第16号 社会福祉法人いいたて福祉いいたて在宅介護支援センター処務管理規程の一部変更について 議案第17号 社会福祉法人いいたて福祉飯館村地域包括支援センター処務管理規程の制定について 議案第18号 社会福祉法人いいたて福祉経理規程の一部変更について 議案第19号 社会福祉法人いいたて福祉就業規則の一部変更について 議案第20号 社会福祉法人いいたて福祉に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について
--------	-------	--	--

### (3) 監事会の開催状況

開催日	出席(人)	内 容
平成17年 5月23日	2	平成16年度社会福祉法人いいたて福祉事業報告について 平成16年度社会福祉法人いいたて福祉一般会計収支決算について 理事会及び評議員会議事録について

### (4) 役員研修

開催日	出席(人)	研 修 名
平成17年 9月 1日～ 2日	4	社会福祉法人における個人情報保護管理についてほか

## 3. その他

- ・ホームの主たる行事に参加し、ご利用者及び職員とのコミュニケーションを図ってきた。

## 平成17年度 特別養護老人ホーム いいたてホーム事業報告書

### 1. 基本方針について

ユニットケア「家」を意識した支援の中において、ご利用者自身の意思と自己決定を最大限に尊重し、個別支援の現実に向い毎月の家会議及び定期的なケース会議を開催し個々を尊重し「自分らしい生活の継続」を目指したケアに取り組んできた。

#### 《具体的な施策》

- ご利用者個々の生活スタイルを尊重したケアと支援の提供について
  - ・ 一人ひとりのライフスタイルと在宅での生活暦を大切にすることで、ご利用者に合った生活リズムに取り組んできた。(無理のない起床や無理強いのないレクへの参加など)
  - ・ 「家」の生活の中でも、ご利用者の居室は大切なプライベートな部屋であるということを強く意識し、入室時は必ず声かけやノックをしてからの支援に努めた。
  - ・ 限られた人間関係での生活であるが、「家」間の行事や、外部からの交流により社会のなかの一員として位置づけを感じてもらえるよう努めた。
  - ・ ご利用者の家族との連絡を密にとることに努め、2ヶ月に1度のお便りや、身体等の変化時の電話連絡、また行事の案内や参加のお願いなど、ホームと家族との信頼関係を築けるよう努めてきた。
  - ・ 日常生活においては、無理強制的なレクの参加や行事への参加を勧めず、自分らしい余暇の過ごし方を大切にできるような誘導に努めた。(お一人で過ごされたい時などプライベートの時間がもてるように努めた。)
  - ・ 「身体拘束をしない」を基本に、言葉遣いも時として拘束になると云うことや、職員の表情や無視なども拘束であるということを周知徹底しケアに努めた。
  - ・ ケース記録の充実を図るため、手書きで行っていた記録から、パソコン入力の記録へ目指し、入力方法の勉強会を積極的に取り組んできた。また、「家」日誌等についても同様にパソコン入力へ移行した。今後アクシデント報告等についても導入を目指す。
  - ・ リスクマネジメントについては、委員会の充実により、「ヒヤリ・ハット」をメモ化にし、気軽に誰でも気づいたことを記入できる体制にした。また重大な事故を未然に防ぐことを目指し、従来の事故報告書を「アクシデント報告」に変え内容の見直しを行った。
- 職員の意識向上の充実について
  - ・ 毎月「家」会議の開催で「いいたてホーム」の目指すケアの確認をするよう努めた。また、各家の現況報告をすることで、他の家の取り組みを共通理解すると共に、自分たちの「家」を見直す機会を設け職員の意識向上に努めてきた。
  - ・ ケア会議を定期的な会議に留めず、その都度ご利用者の身体等の変化に合わせ必要に応じて会議を開催することで、ご利用者の状態把握の大切さを図ってきた。
- 関連部署との連絡徹底について
  - ・ 当ホームでのケアにおいて、医務室との連携はなくてはならない関係であることから、ご利用者の変化に気づいたら、即連絡対応して頂くと共に、介護サイドだけではより良いケアができないことを一人ひとりが理解できるよう周知徹底してきた。
  - ・ 短期入所については、ケアマネとの密な連携を取ることで、安心安全なサービス提供に努めている。また、短期入所のご利用者は、在宅サービスの一環としての利用であるということを常に意識しケアができるよう周知徹底してきた。

## 2. 重点事業目標について

### 1) 介護技術の向上について

- ・ 各「家」においてケアの取り組みの話し合いから、個々に合ったケアの提供や、基本的な介護技術から応用ができるようになり充実してきている。また、「家」の介護職員だけでなく、夜勤者も同じ介護に取り組めるよう申し送りの充実にも努めてきた。

### 2) ケアプランの充実について

- ・ アセスメントを十分に行うことで、最も問題としていることを重点的に話し合い、出来ないことを目標とせず、できることからプランに盛り込むことに努めてきた。

### 3) 家（ホーム）向上委員会の充実について

- ・ 向上委員会を軸に、あらゆる面において、常に向上を目指し中心的な役割を果たせるよう話し合いをしてきた。

### 4) 家長会議の充実について

- ・ 家長はリーダーとして自覚を持つよう周知し、常に「家」だったら・・・という視点から物事を考え実践できるよう努めてきた。

#### (ア) 家族との連絡調整の徹底について

- ・ 2ヶ月に1度のお便り時、ご利用者の現況写真を添え近況をお知らせしている。また、誕生日のお誘いなども積極的に行った。

#### (イ) アクティビティと行事の実施について

- ・ 看護職員による楽しみながら参加できるレクの提供。また、個別毎に工夫し無理なくできるレクの提供により、マンネリ化しつつあった生活から少しずつ脱出できてきた。行事についても、全体、東棟西棟に分かれたもの、家単位で行うものに分けて実施することで無理なく参加することができてきた。

#### (ウ) 個々の生活支援について

- ・ 「家だったら・・・」を中心にしたケアを展開するうえで、毎月の食事・入浴・排泄をそれぞれ見直し、取り組むことが出来た。身体介護（食事・排泄・入浴）に係る基本的技術を常に意識し、応用力を身につけることでより良いケアに取り組めるよう努めてきた。食事においては、各家にフードプロセッサーを購入し、ご利用者のその日の体調や副食の形態によって食事の介助や食事用具の提供を行った。排泄においては、個々により日中や夜間帯別にそのご利用者にあった排泄用具を用い、本人のストレスにならないような介助に心掛けてきた。入浴については、全体までは至っていないもののマイタオル・マイバスタオルを使用したり、マンツーマン入浴の充実にも努めるよう取り組んできた。

## 3. 家長会議及び委員会活動報告について

### ○ 家長会議内容

回数	月日	会議内容	回数	月日	会議内容
1回	4/4	17年度の取り組みについて	8回	9/27	敬老会・入浴について
2回	5/12	業務の見直しについて	9回	10/13	業務の見直しについて
3回	5/31	排泄勉強会について	10回	11/12	9回の見直し再度検討について
4回	6/17	排泄勉強会の見直しについて	11回	12/10	入浴の見直しと年末年始に向けて
5回	7/27	各家の情報交換について	12回	1/11	食事について厨房への要望
6回	8/17	食事・入浴・排泄の見直しについて	13回	2/9	パソコン入力勉強会
7回	9/6	6回検討事項の報告について	14回	3/28	17年度の反省について

○ 環境委員会

月 日	実 施 内 容	反省・感想等
4月～5月	畑及び花壇作り 西棟は家毎に実施	村農業委員会の方の協力によりほほえみの家前の畑を耕して頂く。キュウリ・トマト・南瓜・いんげん・西瓜・茄子を植える。
5/24	東棟 ワックスかけ	大ホール・廊下 遅番の協力を得る。
6月	草むしり	ご利用者と一緒行っています。
7月	窓拭き・椅子掃除	家毎に実施
8/21	東棟 ワックスかけ	居室全室 遅番の協力を得る。
8月	野菜の収穫	キュウリ・茄子は漬物で提供 茄子ピーマン炒めや天ぷらでご利用者と一緒に調理する。 西瓜は各家に配りおやつとして食べる。
10月	畑・花壇の片付け	各家対応・東棟は環境委員が中心に行う。
11/20	東棟 ワックスかけ	大ホール・廊下 遅番の協力得る。
11月	居室以外の窓拭き	ユニット毎及び清掃員の協力を得る。
12月	カーテン洗濯	居室仕切りカーテンの洗濯 トイレカーテンの洗濯
	窓拭き	各家で実施
	高所すす払い	業者対応
	大掃除	各家台所周り集中的に実施（スチーム使用）
1月	椅子掃除	各家対応（スチーム掃除機使用）

○ 行事委員会

月日	実施日・行事	内 容
4月	花見ドライブ	家毎に天気の良い日及び体調良好時、村内ドライブ。
5月	1日 家族会総会	家族会の顔合わせ及び花見会として会食会（各家）
	15日 母の日	各家に鉢植えカーネーションをプレゼント。
6月	19日 父の日	家毎に花の鉢植えや観葉植物をプレゼント。
7月	7日 七夕	家毎に飾りを作成 願い事を短冊に書く。
8月	6日 夏まつり	東棟駐車場にて実施 盆踊り 模擬店
	19日 百歳賀寿	ぬくもりの家 横山チヨ様 東棟大ホールにて。
9月	18日 敬老会	東棟大ホール 5行政区婦人会の踊り及び祝い膳
	29日 芋煮会	東棟→家毎 西棟→西棟交流スペースにて合同
11月	3日 運動交流会	東棟大ホール 全員参加（短期入所者も含む）
12月	25日 クリスマス	各家対応 ケーキを3時のティータイム時に食べる。
	28日 餅つき大会	東棟大ホールにて全員参加
1月	3日 新年会	東棟→大ホール 西棟→西棟交流スペース。
	13日 団子さし	各家対応 団子粉配布し利用者と共に団子作成する。
2月	2日 百歳賀寿	のどかな家 大浦英子様 東棟大ホール。
	3日 節分	各家にて実施→施設長が袂姿にて豆まきをする。
3月	3日 ひな祭り	東棟大ホールに雛人形を飾り季節感を味わう。

○ リスクマネジメント委員会

月日	議 題	内 容
10/24	委員会の取り組み	委員選出 ホームリスクマネジメントの指針確認

11/2	研修報告から	研修から学び、ホームで取り入れられるマネジメントについて。
12月	ヒヤリはっと集計	集計することで、事故等の内容及び発生時間などの確認と未然に防ぐ為の改善検討資料とする。
1/19	ヒヤリはっと・事故報告書の見直し	従来のヒヤリはっとをメモ化することで、誰もが気軽に記入でき事故防止策に繋げる。また事故報告書の内容を見直し、重複する内容の削除及び重要事項の記載を盛り込み名称も事故報告書から「アクシデント報告書」とするなどの提案を職員会議に諮る。
2/6	リスクマネジメントのマニュアル作成	防災・介護・医務分野に分けマニュアル作成し、トラブル発生時最大限の対応をスムーズに行えるようにする。
3/22	各マニュアル完成	上記のマニュアルを完成させ各家に配布し周知する。

○ 排泄委員会

- ・ 各家長が委員となり、オムツ発注の担当者とする。また、各種新製品の紹介やご利用者個々にあったオムツの取り入れをすることで自立生活を目指した。

4. 短期入所利用について

	日数	延べ利用人数	1日平均	月平均
4月	30日	210人	7.0人	
5月	31日	244人	7.9人	
6月	30日	266人	8.9人	
7月	31日	234人	7.5人	
8月	31日	292人	9.4人	
9月	30日	244人	8.1人	
10月	31日	192人	6.2人	
11月	30日	205人	6.8人	
12月	31日	192人	6.2人	
1月	31日	227人	7.3人	
2月	28日	273人	9.8人	
3月	31日	236人	7.6人	
合計	365日	2,815人	7.7人	234.6人
(内訳)				
西棟	365日	2,565人	7.0人	213.8人
東棟	365日	250人	0.7人	20.8人

5. 夜間の転倒事故について（Aさんの事故の問題点と改善策）

○ 事故概要

平成17年8月19日午前3時20分頃、夜間巡回中、ショートご利用者の部屋から大きな声があり駆けつけた。訪室すると床に座りこんでいた。当人はトイレに行くため車椅子に移乗しようとした際、リュウマチによる手足の痛みにて物をつかむことが大変な状態で失敗したとのこと。外傷及び痛みの確認。足腰の痛みを訴えるが、動くことは可能だったためベッドに誘導し横になる。6時10分にナースコールによりトイレ介助。午前6時30看護師の指示を仰ぐ。10時に家族等に連絡し大町病院受診した結果、腰椎圧迫骨折により入院の運びとなった。

○ 問題点（反省）

- 1) Aさんには何かあればナースコールを押して下さいと説明はしていたものの、遠慮しないで

利用できるよう何度も声かけをするべきだった。

- 2) 何回かショート利用していることから、ある程度自分でできると安心していただけ面があった。
- 3) ショート利用者は特に見守りや気配り、状態把握に努めるべきだった。
- 4) リュウマチをもつことへの理解不足だった。

○ 改善策

- 1) ご利用者の状態把握（病歴、問題行動、ADL等）を確実にこなす。
- 2) 夜勤者に日中の生活状況を的確に申し送る。
- 3) ご利用者に問題等があれば、状態に合わせてこまめに巡回する。
- 4) 常に危険があることを念頭に置き確認を怠らない。
- 5) 緊急時の処置と救急車要請、正確な状況の伝達・家族及び関係機関への報告を徹底する。

6. まとめ

既存施設のユニット化から約3年、ユニット施設では早2年が過ぎました。特に平成17年度のケアの取り組みは、ある意味変化を求められる年でもあったように思います。

例えば、ご利用者の居場所づくりから始まり、個々の生活ペースの充実、そして生活のマナー化からの脱出を図る等です。そうしたなかで、介護職員も様々な葛藤がありましたが、毎月、家単位で話し合いを行い、確認し、どんなことでも「もし家だったら・・・どんなケアが必要？」ということを中心に、「後退はない前進あるのみ」を合言葉に取り組んできたことは評価に値すると思います。

また、ケース記録についても、18年度から手書きの記録からパソコン入力へと移行するため、短い準備期間で、全員が習得したことも素晴らしいことだと思います。

反省点としては、各委員会の計画立案が不十分であり、計画は立てても協力体制に欠けていたり、取り組みが遅かったことなどが挙げられ大きな反省になっています。

また、各家の特徴がはっきりとしてきた年でもあり、介護職員の仕事への取り組みも家毎に差が生じてきたように感じられ、17年度の反省をしっかりと受け止め、次年度に繋げたいと思います。



## 平成17年度 のどかな家 生活報告書

### 1. 生活全般について

少しでも快適に、ゆったりと、落ち着いて過ごして頂けるように、テーブルの配置換えや、環境整備に心掛け、大きな事故やケガも無く過ごして頂けたと思う。

個々の性格や癖、生活習慣を把握し、集団生活の中ではあるものの、少しずつではあるがより個別のニーズに応える気配りが出来たように思う。

一日の生活は、時間との戦いを繰り返しているのが実情であり、特に予定外の行事等に関しては、介護職員側の柔軟な対応が難しく、ご利用者の方や、他職員に迷惑をかけてしまうこともあった。

### 2. 食事について

自宅での食事をイメージすると自分の茶碗・箸・湯飲み・スプーンで食事を摂るのは当たり前であるが、ご利用者と職員全員の食器を家で管理することは、物理的に困難であった。しかし、一部のご利用者の方には、自分の物を使用することにより食事の雰囲気を感じて頂けたと思う。

配膳用のお盆は便利ではあるが、見た目にも給食のイメージが強く、また十数枚のお盆を洗浄することで効率の悪化を招き、廃止してみようと数日間試したものの、個々の食事形態の違いと食数の多さ、夜勤者が把握するのも困難な状況にあり、何よりもご利用者から『何にやってんだ。まだか〜』と大声をだされてしまうなどの支障を来したため、現在も使用継続している。そのような中でも、ランチョンマットを数名の方が使用されており、少しは給食イメージが和らいでいる。

長期間ベッド上で食事摂取されていたご利用者が、褥瘡痕の経過観察の状態まで良くなったため、リクライニングでの移乗を試み、食事摂取して頂いている。離床し座位にて周囲の様子を覗きながら、とても穏やかで、表情豊かに食事されている。発語も多く会話が成り立つ時がみられている。これほどまでに臥床時と離床時の表情が違うものなのだと痛感させられた。

嚥下困難なご利用者には、看護職員との連携を密にし、誤嚥防止に配慮していたが、ご利用者の体調不良により12月末より経管栄養に移行され、様子観察行いながらホールで過ごされている。また、身体的に長時間の離床困難なご利用者は、どうしても居室にて一人で過ごされる時間が多いため、せめて昼食時だけでも皆さんと一緒に食事の雰囲気を感じて頂けるよう、ベッド移動によりホールで食事を摂って頂いている。

ご利用者の要望に副ったご飯の量やキザミ具合、嫌いな物の代替品等（海苔・梅干し・漬物・果物）で対応できたことと、食事摂取量が度々少なかったような場合は、看護職員や栄養士に相談することで、柔軟な対応が取れるようになった。

### 3. 排泄について

オムツ交換の際、陰部洗浄を行なうことにより、尿臭の軽減を図ることができた。また、スキントラブルも少なくなってきた。

トイレ介助時にパット交換を行なう場合は、トイレに準備して置いた清拭タオルを、お湯

で絞って対応することで、ご利用者の側を離れることなく安全に、そして清潔を保つことが出来てきた。

立位困難な方でも、尿意・便意がある方には、2人対応にて安全に介助を行なうことで、トイレでの定期的な排便を促すことに繋がってきた。

本人からも毎回の様に、『ああ～良かった。スッキリしたよ～。』との言葉と笑顔がみられている。

また、看護職員との連携を特に密にし、褥瘡悪化に細心の注意を払い、夜勤者の協力も得ながら1日8回～10回のオムツ交換及び体位交換を継続してきた。その結果、仙骨部に重度の褥瘡があったご利用者1名が完治され、現在は褥瘡痕の状態観察しながら、リクライニングへの移乗でお昼を過ごされる状態までになっている。その様な状況の中、朝・夕2回の褥瘡処置を行い、排泄物で汚染されないようにパットのあて方やシートの活用を工夫し、体位交換時も2名で対応にあたっている方がおり、完治されたご利用者のように、少しずつでも良くなって来てくれることが、スタッフの期待と遣り甲斐に繋がっている。

#### 4. 入浴について

プライバシー確保の意味では、以前の入浴方法に比べ、とても良くなったと思うが、カーテンを取り付けていても忘れてしまったり、活用していてもそのカーテン1枚を挟み、男性と女性が入浴されている状況もあり、違和感を抱くが、限られた時間内に、効率よく、そして安全にゆったりと入浴して頂く事を優先すると、口を閉ざしてしまうようになる。着替えの際にも、タオルを活用し、極力肌を露出しないように工夫しながら行なうのも介護技術として習得しなければと思う。

『自分用の入浴タオルを準備して入浴していただけたら・・・』の声があったが、なかなか実行できず今後の課題にもなっている。

#### 5. 行事やアクティビティーの取り組みについて

外出の機会が少ないご利用者の皆さんに、天気の良い日には外気浴を兼ねて気分転換を図って頂く事ができた。

看護職員のリハビリを兼ねてのレクは、時間的にも回数的にも、ご利用者の負担にならず、無理なく参加することが出来ている。『今日は何の遊びするんだ?』『明日もあるのか?』と意欲的に参加されるご利用者もみられる。

ご家族より季節の野菜や果物を頂くと、のどかな家の料理人が手際良く調理し、皆さんに『うまい。おいしい。』と喜ばれていた。しかし、ご利用者の皆さんと一緒におやつ作りを行なうことは難しかった。

各行事については、事前に連絡があっても、予定通りの時間までに集合できなかつたり、(朝食時間が長びいたり、排泄介助、褥瘡処置等で)行事に参加されると、興奮気味になり突然怒鳴りだすご利用者がおり、他のご利用者にも悪影響となってしまう場合があった。介護職員が間に入っても逆効果になってしまう等、対応困難な場合が多かった。

賀寿祝いの際は全職員の協力を頂き、和やかな雰囲気の中、思い出に残るすばらしい誕生祝いとなった。計画を立てても業務中に行なうことが出来ず戸惑うこともあったが、のどかな家の職員が一致協力したことでクリア出来たと思う。

## 6. 一年を振り返って

職員の異動や、業務内容の変更、新規ショートステイご利用者の受け入れの他、ホーム全体の業務を担っているものもあり、早番2名・遅番2名の4人体制ではあるものの、ご利用者に思うように関わることが出来ず、これでいいのかなと疑問に感じながらもケアと業務を進めて来たように思う。そのような状況でも、職員が何気なくご利用者に声かけをただけで、その日のご利用者の体調や精神面での動きを捉えられることや、何かの変化に気付く事が出来てきたと言う事が、家の一番の収穫と言えると思う。

『ユニットケアなんだから、こうしなくちゃ。こうやらないと、ユニットとは言えない。』ではなく、職員間での話し合いのもと、こんな援助方法してみたら、ご利用者がこんな風になってきた。そのように変わったことで、全体もなんとなく落ち着きが見えてきた……。等と、そんなことの繰り返して、結果的に出来上がったのが、のどかな家のユニットケアなんだと、そう感じる事が出来たら、肩の荷を降ろし楽に、もっと楽しくご利用者と接する事が出来るのではないかと感じた。

## 1. 生活全般について

昨年同様、皆さんから提供して頂いた野菜の苗を前庭の畑で育て、収穫した野菜を漬物にしたり、果物をミキサーにして提供したところ、おいしそうに食べて頂きました。また今年初めて植えたさつま芋の収穫は1本。残念ながら不作でした。

業務については、介護職員が1人増えたことにより、おしぼり干しや消毒液の交換・衣類の整理なども以前より細目に出来たり、寝たきりだったご利用者を離床させ一緒に過ごす時間が出来た。またトラブル防止に何度も席替えをした結果、炬燵を囲んでテレビを見ながらご利用者同士が笑顔で会話をされるようになった光景などを見ると「あーこれが本当の家族なんだなあー」と感じるがありました。ただ残念なのは体調不良により入院されていたご利用者を看ることが出来なかったことと、終末ケアを迎えられているご利用者に、毎日のケア内容の質を高めることについて取り組んで行くことが難しかったこと。

今後1ユニットとしての職員の配置を希望し、更にご利用者に満足していただけるような体制作りが必要だと思えます。

## 2. 食事について

フードプロセッサーを購入して頂いたことにより、おやつ時や食事時に収穫した果物や野菜・副食をミキサーにし提供することが出来き、とても喜んで頂きました。また厨房とコンタクトを取りながらご利用者の生活習慣の延長に合わせ、バナナやパン・ゼリーなどを提供してきたことから、嚥下困難時経管栄養になる寸前まで、口から食べることの喜びを味わって頂けたのではないかと思います。苦勞した点については、糖尿病を持つ2名の方の血糖バランスに注意し、おやつ時の対応や誕生日などのメニュー希望に対し、対応して頂くことが大変でした。

## 3. 排泄について

立ち上がりが困難だったご利用者の訴え時の訪問や誘導回数を増やしたことにより、補助具を使用せずスムーズに介助が出来るようになったと言われるようになったことは嬉しい限りです。

また、経管栄養のご利用者が快適に過ごせるようパット交換の回数を増やし、尿臭のあるご利用者には洗浄などを行い、尿量に合わせたパットを使用しながら、皮膚トラブル防止に努め改善してきました。現在、トイレ介助者6名・オムツ使用者5名ですが、不機嫌時精神安定のためにベッド上で交換を行ったり時間を置いて介助をするようにしています。

## 4. 入浴について

入浴を拒否されるご利用者には、様子を伺いながら再度声かけ入浴して頂き、その日の身体状態に合わせ入浴形態を変えることで、無理なく安全にゆったりと入浴して頂けたと思います。終末が近づいているご利用者が自傷行為や発作などで入浴が大変なときは、安楽な状態を保つために、2～3人の介護職員・看護職員で色々な形態で施行し、時間もかかってしまいましたが、快く協力を得て入浴をすることができました。

一時期でしたが衛生介助を体験することで、ご利用者の状態を知ることができました。

#### 5. 行事やアクティビティの取り組みについて

看護職員・主任・副主任の協力のもと、春には桜の花を見ながらご利用者の家の近くを通るドライブを実施。夏には外気浴を兼ねて中庭で食事をして楽しみ、秋には紅葉を眺めながらドライブを実施。季節感を味わって頂くことが出来たと思います。

介護職員が2人勤務のときは、冬至南瓜やホットケーキ作りなどをご利用者の前で作り、見て楽しみ食べて喜んで頂きました。また、自力で食べられないご利用者に、他のご利用者が介助してくれるというほほえましい光景もありました。家で行った団子さしにも「あとはどこだ・どこにさすんだ」と言われながら楽しく行いました。

#### 6. 一年を振り返って

家の介護職員として期間も短かったので、落ち着いた態度でご利用者に接することが出来ず、他の介護職員から指導されることもありました。帰宅願望や排泄の訴え時すぐに対応できず待たせてしまうことがあり看護職員・主任・副主任に協力して頂くことも多々あり、また、ご利用者一人ひとりの声かけや話相手にもなれず、淡々と業務を行う日々でありコミュニケーションが足りなかったように思います。ご利用者と接することが出来ずにいたところレクリエーションに参加する機会ができとても良かったと思います。

## 平成 17 年 なごみの家 生活報告書

### 1. 生活全般について

- 季節ごとにリビングの装飾を行い、季節感を感じてもらえるよう工夫しました。生活にメリハリをつけ生き生きと生活を送って頂こうと次のように支援をして参りました。

月	内 容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見を兼ね大倉方面へバスハイクに行かれる。</li> <li>・天気の良い日には外気浴をしながらレクリエーションを楽しまれる。 (新緑を眺め季節感を味わっています。)</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旬の山菜「ふき・わらび」の皮むきをされたり、柏餅作りを行いました。 (季節感と生活感を味わうことが出来たようです。)</li> <li>・飯桶のお祭りを見に行かれ郷土の祭りを観て懐かしまれる。</li> <li>・一部のご利用者がドライブに行かれる。</li> <li>・外気浴とレクリエーションも楽しまれる。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動販売があり、目の保養をされた方や買われた方もいます。</li> <li>・プランターにミニトマトの苗を植える。 (ご利用者の方で植え方のご指導をしてくださる方もおりました。)</li> <li>・中庭において昼食やおやつ摂り気分転換を図る。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七夕飾りの短冊に願い事を書かれる。</li> <li>・暑くない日には外気浴を行う。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のご理解・ご協力がありお盆には2名の方が自宅へ外泊されました。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7名の方が川俣方面へ出かけ、回転寿司を食べたり、スーパーでショッピングも楽しまれる。(大好評でした「また行きたい!」との声も聞かれました。)</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会へ向け玉入れや他競技の練習をされる。 (ご利用者の意欲を引き出すことが出来ました。)</li> <li>・ホットケーキ作りを行いました。(ご利用者も協力して下さいました。)</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回紅葉狩りに出かける。(気分転換と季節感を味わっています。)</li> <li>・干し柿を作りました。(積極的に皮をむいて下さる方もおりました。)</li> <li>・寒くなり外へ出ることが少なくなり、ストレス予防の為フロアでのレクリエーションを活発に行いました。(なごみの家のご利用者は踊り観賞と歌の好きな方が多いです。)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスツリーを飾りご利用者と共に楽しみました。</li> <li>・餅つきにも参加されかけ声をかけられていました。</li> <li>・ご利用者と共になりんごの皮をむきりんご煮を行いました。</li> <li>・1名のご利用者が自宅に外泊をされる。</li> <li>・なごみの家で作った干し柿を美味しく戴きました。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者と共に団子を丸め団子刺しを行いました。</li> <li>・正月の余暇としてカルタ取りを行いました。(競争心が見られました。)</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッサージチェアが入り毎日利用されています。</li> <li>・ストレスが溜まらないようにと歌われたり軽く体を動かすなどレクリエーションを活発に行いました。</li> </ul>

### 2. 食事について

- なるべく意欲の芽をつまないためにも、ご利用者自身で食事を摂って頂き自分で食べること

の行為を大切にし、ご利用者の状態に合わせた食事を提供することで、ご利用者のペースで美味しく食事が出来るよう心がけ、提供出来たと思います。

- ・ 義歯が緩くなり上のみ使用で褥瘡も出来ており、残食の多いご利用者がおられましたので栄養状態を良くすることと褥瘡を予防するためケア会議を開き、入れ歯を使用せず超刻みで提供したところ完食されるようになりました。結果、栄養状態も良いためか褥瘡も治りました。
- ・ 食事時のエプロン使用者についても、ナイロン系ですので夏の間は暑いのでは？と思い布のエプロンを使用してみました。
- ・ 右片麻痺のご利用者がご飯茶碗としてどんぶりを使用されていましたが、深過ぎることとスプーンですくわれる時に軽くて食器が動き食べづらそうでしたので、瀬戸物の浅い食器を使用して頂いたところ食器の重みにより安定感もありスムーズに摂取できました。

### 3. 排泄について

- 褥瘡予防と不快感を少しでも緩和出来るよう個々に合ったパットを見直し、オムツ交換のタイミングも見直したところ、今のところ褥瘡になられている方はおりません。
  - ・ 声かけとコミュニケーションを図ることにより信頼関係を築け、頻回にトイレに行かれていたご利用者が以前より穏やかになりました。
  - ・ 一部介助を要する2名の方が自立に向けた支援を促し行ったところ、1名の方はリハビリパンツにパット使用でしたが今では布パンツのみとなり自力で排泄が出来るようになりました。もう1名の方も見守りではありますがご自分でズボン等の上げ下げが出来るようになりました。
  - ・ 暑さ対策のため、オムツ使用の3名の方に夏季の間ボクサーパンツとパットで試みたところ発汗も少なく蒸れ防止にもなったようでした。
  - ・ 歩行不安定のご利用者が夜間帯トイレの場所が分からなくなり、居室の窓ガラスに向かい放尿されることが多く、対応としてセンサーマットを使用したところ、安全にトイレへ誘導することが出来、放尿することも無くなりました。また、排便の前の行動が分かるようになったことでトイレ誘導が出来、リハビリパンツとパット使用からボクサーパンツとパットになりました。

### 4. 入浴について

- 衛生面にも考慮し、ご利用者にゆったりとした気分で気持ちの良い入浴を提供するため様々な問題に対して次のようなことを対応してきました。
  - ・ 入浴をする際、衣類交換することを拒まれたり、洗濯から衣類が直ぐに戻って来ないと異常に不安になる方の対応として、安心して頂くため、小型洗濯機で洗濯し直ぐにご本人のいる居室に持ちよりハンガーにかけ居室で乾かして頂くなどの工夫をしました。
  - ・ 家内の介護職員が声かけをしても入浴を拒否される時は、そのご利用者と相性のよい他の家の介護職員に声かけをして頂き入浴を促してもらうなどの工夫もしました。

### 5. 行事やアクティビティー

- 生活のマナー化を防ぐため、季節ごとの行事に参加して頂き、その季節感を目と体で感じ

て頂くことで、自主性と意欲を引き出せるよう支援して参りました。今では自発的に「今日は何かやらないのか！」と訴えて下さるご利用者もおります。

- ・ 春と秋の暖かい日には、なるべく外気浴をして頂き自然の景色を眺め季節を肌で感じながら軽く体を動かすレクリエーションを行いました。
- ・ 運動会では、当日に向け数日前から玉入れの練習をするなど楽しみながら参加することが出来ました。
- ・ 冬季は寒く殆んど中で過ごす日が多いため、ご利用者のストレスが溜らないようにとレクリエーションを多く行いました。また、ビデオ鑑賞や歌を歌われたりカルタ取りをしたり、大ホールで各家のご利用者が集まり週3回行なわれるレクリエーションにもなるべく参加して頂きました。他の家のご利用者との交流することにより新たな楽しみが増えたようです。

## 6. 一年を振り返って

早いもので「なごみの家」に配属になり1年を迎えようとしています。当初、私事でありますがホームを留守にしまったことで、ご利用者及び職員の皆様に大変ご迷惑をおかけしたとともに、逆に心配して頂き申し訳なく思いました。

ご利用者についても、職員の異動に伴い不安も与えてしまったかと思いますが、日が経つにつれ徐々に受け入れてもらえる手応えを感じ、それを励みに支援して参りました。

本年は2名のご利用者の方がお亡くなりになり、淋しい日を送ることもありましたが精一杯の終末ケアをさせて頂きました。

ご利用者の中には、自立を目指し自ら取り組もうとされている方や、帰宅願望を抱いている方、不安を抱いて生活をされている方、拒否される方等、精神面においても、多くの声かけとコミュニケーションを図り、心のケアを大切にすると共に、意欲の促進が大切だと改めて感じさせられました。帰宅願望を抱かれていますご利用者においては、他部署の方に大変お世話になりご迷惑をかけてしまう事が多々ありましたが、その都度快く対応して下さいとて有難く感じています。また、その方の唯一の安らげる場所として、これからも温かく見守り、今まで同様、色々な面でも他部署の協力を得ながら居心地の良い生活を送れるよう支援して参りたいと思います。



## 1. 生活全般について

- ・ 新体制当初は、ご利用者同士のトラブルが多く見受けられたり、自らの行動により怪我をされた方がいたりして、この先、この方々と暖かい家が持てるのかとても不安であり、またどうしてこのような状況になってしまうのか、様子を見ていたところ、食事時のトラブルが多いことが分かり、下膳方法を変えたり、食事中でも多く声かけを行った結果、現在ではトラブルも減りご利用者間やご利用者と介護職員間において何でも言い合え、間違っていることは本気で叱り合える関係になって来たと思います。今でも時々ご利用者同士の本気の喧嘩や悪戯なども耐えませんが、次の日には何も無かったかのように会話が進んでいるようです。

ゆとりの家は、ホールとスペースに分かれているため、ちょっと気まずいと思った時に距離をおいて気分転換が図れるスペースがある事は、他のユニットに無い良い点だと思いました。

## 2. 食事について

- ・ 外に出られる機会が少ないご利用者の方々に少しでも季節感を多く味わって頂けるよう、ホーム菜園の野菜を利用したり、ご利用者自ら収穫された物や介護職員が必死で収穫して来た、様々な旬の素材を生かし下手な料理を食べて頂きました。なんだこんな旨くね物作ってとの言葉は聴かれませんが、口にする事によって自然に表情も朗らかになり食事の会話も増え、ある方は今まで、きのこ禁でしたが自然の美味しさに負け、どうしてこんな美味しい物を今まで食べなかったんだべ、損したな〜と、現在ではきのこ禁では無くなりました。本当に嬉しい事です。毎日の食事の中でもご利用者が食べたい物を選び、楽しむ食事があると気持ちにも表れて来るのではないかと感じました。

## 3. 排泄について

- ・ 夏頃まではトイレ介助だった方が、看護職員と毎日の歩行リハビリや排泄ぐらいは自分でしたいとの硬い意思で訓練してきた結果、現在ではパット外しに成功、自立排泄出来る状態になり、本人の精神的部分の軽減や表情の硬さも少なくなって来たように感じます。また、尿漏れが多く、居室の臭いが気になっていた方には、声かけを十分に行い、ご利用者の方からの暴言が出ておめげずに取り組んで来た結果、居室の汚れなどは殆ど見られなくなりましたが、別な面で動きがスムーズでないためトイレでの排尿ではなく、パットへの排尿が増えたようです。

度々夜間者の方から毎朝のように尿漏れがあり、衣類だけではなく布団交換も多いのでどうにかならぬものかとの声が聞かれ、いろいろな方法を試みては見ましたが上手く解決の方向には至らず、現在もこの状況は続いております。今後の課題点として考えて行きたいと思います。

## 4. 入浴について

- ・ 自分の家にお風呂がある事によって、ここは自分の居場所だなどの意識は強いように感じます。入浴だけは時間に流されることなく気持ち良く、ゆったりと入って頂いております。

以前は、特浴にて入浴されていた方で、足の痛みも和らいで来たので家のお風呂に入って見ませんかとお誘いしたところ、本人も納得され入浴して頂いております。

入浴前には、介護職員の話術が必要とされ大変ですが、入浴後に、『あ～気持ち良かった。また入ろう。』との言葉が聞かれるとほっとしております。心配な面としては、車椅子ご利用者が多いためお風呂場の入り口が狭いのでちょっと危険な部分かと思われま

## 5、行事やアクティビティの取り組みについて

- ・ おやつ作りなどを通して、ご利用者間のコミュニケーションを深めようと思いましたが、介護職員が思っているように上手く事が運ばず、他の方に遠慮し手を出せない、出してくれないと云った状況でした。これではおやつ作りなど出来ないと思いましたが、何度か取り組んでいるうち、声かけによって集まり出し、和気あいあいとした中で行うことが出来、多くの笑顔も見られるようになりました。また、外に出かけられる機会があまりありませんでしたが、食事を兼ねた買い物ツアーは大変好評で気分転換にも繋がり、これからも機会を設け実施して行きたいと思っております。

## 6、一年を振り返って

- ・ 一日の流れが作業的になってしまい、ご利用者との関わる時間が持てず、レクなどは看護職員にお任せ状態になってしまった事が反省点として挙げられます。その中でも嬉しくなっていた出来事も沢山あり、一日を主にベッド上にて過ごされている方で、介護職員がすぐ目の届く所に居室替えを行い、体のタッチや声かけを増やしたところ、表情も豊かに発語も多くなりました。

この一年間いろいろありましたが、1名の退居者を出したことは残念ですが、14名のご利用者の方々は大病も、大きな怪我もなく過ごす事が出来、介護職員一同本当に嬉しく思いました。

## 平成 17 年度 ひだまりの家 生活報告書

### 1. 生活全般について

- ・ 食事時間に起きられないご利用者に対し、随時居室での様子を見、しっかりと覚醒した状態で離床し食事を食べて頂いたり、次の食事時間まで間もない場合は、おやつ等軽いものを提供し食事をしっかり食べて頂きました。個人専用ランチョンマットの使用と滑り止め食器から、少し深めの陶器の器にすることにより、家庭らしい雰囲気になったと思います。精神面のケアは難しくまだまだ対応しきれないことがあります。前年度に比べご利用者間のトラブルも減り笑顔の多い家になってきたと思います。個々に合わせた支援に時折限界もあり待つて頂くことがありました。

### 2. 食事について

- ・ 好き嫌いが多くその都度、厨房にお願いし対応して頂きました。ペースト・超キザミのご利用者については厨房で対応していただき、キザミのご利用者はフードプロセッサーと包丁で刻み対応しました。常食のご利用者でも硬い物に関しては刻みを提供しています。それでも食事量が少ないご利用者は十分な栄養が摂れずサンエット等で補っている状態です。

### 3. 排泄について

- ・ 個々の排尿パターンに合わせた排泄用品の使用と、トイレ介助を行うことにより褥瘡予防に力を入れてきましたが、時々皮膚の剥離や切れることがあり処置をお願いすることがありました。排便に関しては、看護職員と相談し、下剤等の調節を行ったり、野菜ジュースの提供、排便間隔を把握しトイレ介助を行うなどすることにより、少しずつ改善されてきたように思います。

### 4. 入浴について

- ・ 入浴を好まないご利用者が多く、いかに気持ちよく入浴して頂くか日々奮闘しています。毎日入浴したいご利用者の希望に応えられていない状態にもあります。

### 5. 行事やアクティビティの取り組みについて

- ・ 西棟での行事に関しては、積極的に参加されるようになってきました。しかし東棟での行事には距離があるせいか「行きたくない。」との声があり、参加されるご利用者が少ないのが残念です。声かけを十分に行い行事に参加して頂けるようにして行きたいと思います。また、前年度に比べ、西棟全体で行う行事を他の家と相談し実施することができ良かったと思います。

畑作りは、殆ど職員が行っていますが、外に出るきっかけ作りになることと、野菜の成長と収穫が、心の癒しとなっていたことにより大変でも今後も作って行きたいと思います。

- ・ 今後の検討事項として、家毎に分かれての食事ばかりではなく、気分転換のためにも、他の家のご利用者と一緒に食事が摂れるような誘導や工夫により川俣等に出かけ食事や買い物に出かけることが出来ましたが、今後も時々出掛けられるようにしたいと思います。

## 6, 一年を振り返って

- ・ ご利用者同士のトラブルで、職員の説明不足等によりご家族まで巻き込んでしまい大変ご迷惑をお掛けしたことがあり、改めてご家族との信頼関係の大切さが分かりました。その後面会時には今まで以上にご家族と話すようにしています。
- ・ 個々に合わせたケアを行うことにより、職員の動きがあわただしくなってしまうことがあり落ち着きのない雰囲気になってしまうことが度々ありました。
- ・ 結果を急がず 1 日 1 日のケアを大切にしていきたいと思えます。
- ・ ユニットケアになり 2 年が過ぎ、沢山の出来事があり本当の家族にはなれないけれど「明日も来てね」「今日の早番遅番は誰?」「ありがとう」「待っていたんだ」などのご利用者の言葉から、家族という関係に少しずつではあるものの近づけて来ているのかなと感じています。

## 1. 生活全般について

年間を通し取り組んで来た事は、声掛けをし、散歩、外気浴、レクリエーションの参加に力を入れてきました。運動を少しでもする事により、ADL のレベルダウンを防ぐことが出来ました。また、他の方とも触れ合う事によりコミュニケーションも十分とることが出来ました。反面、散歩に行かれる方とフロアに残られる方に分かれてしまい、目配りに欠けてしまいました。他の家の介護職員さんや看護職員さんのご協力の下、大きなトラブルやアクシデントもなく過ごす事が出来ました。また、ご利用者のその日の気分により、運動をしない時もあり声掛けのタイミングの難しさを感じました。

他の家との交流会も、行事や日々生活の中で自然と持つことが出来ました。大きな交流会としては、ひだまりの家と合同で、長のり巻き作り、おでんパーティー、西棟全体では、スパグッティパーティー、芋煮会、クリスマス会、新年会をすることが出来ました。また、他の家と交流を持つことにより、いつもと違う雰囲気となり良かったと思います。

大きな行事の中で、準備不足やアクシデントもあったりしたので、準備の段階でもう少し綿密に話し合いを行い、スムーズに流れるよう工夫すれば良かったと思いました。

横山チヨさんの賀寿祝いの際は、踊りの練習時間を早めに設けられず、皆さんにご迷惑をかけてしまいました。もう少し早めに、取り組めば良かったと思いました。しかし、ホーム全体のご協力の下、楽しい雰囲気の中で祝いの会、食事会を行うことが出来たことは、大変嬉しく思いました。

## 2. 食事について

朝食は、特に個々にあった時間に提供する事が出来ました。自分から目覚められてから召し上がることにより食欲が出たようです。しかし、傍についてあげる事が出来ず、一人で食べる状況となってしまったので、もう少し工夫が必要だと感じました。

家庭菜園で採れた野菜を料理し提供することにより、話題にもなり、ご利用者同士の繋がりがより一層深くなったように思います。また、野菜を好まない方も、家庭菜園の野菜は、美味しそうに召し上がられていました。特に、もろきゅう、なす炒めは好評でした。

食べない人にどう食べてもらうか、職員間の情報交換、栄養士、看護職員のご協力の下、ストロー使用からマグカップ使用へ、経管者が経口摂取する事が出来ました。これからも、残食の多い物をどの様にしたら食べて頂けるか、工夫がまだまだ必要だと感じました。

## 3. 排泄について

排泄パターンをつかむことにより個々に合ったパッドを使用し、トイレ誘導、介助する事により、オムツ、パッド外しも出来た方もおりました。反面、尿失禁の方の対応が未だつかめず、時間を見てトイレ誘導したり、尿臭を感じた時に声掛けをしている状態です。

個々に合った排泄時間を持つことで、皮膚トラブル、尿漏れがなくなり清潔保持ができ快適に過ごして頂くことが出来ました。また、皮膚トラブル予防のために、日勤、夜勤者のご協力の下、馬油塗布を毎日続けています。

#### 4. 入浴について

- ・ 時々、マイバスタオル、マイタオルを使用して頂きました。
- ・ 入浴剤を昨年に引き続き使用する事により、お風呂に入る楽しみを持って頂くことが出来ました。また、季節により入浴剤を変え、その時の季節感を味わって頂きました。（例えば春は桜の香り、冬はゆずの香りなど）
- ・ 昨年に引き続き六十〇ハップを利用する事により、水虫防止、悪化防止が出来ました。
- ・ マイバスタオル、マイタオルを毎回使用する事が出来なかったのが、毎回使用する様に工夫出来ればと思います。
- ・ 入浴中、ゆったりと入浴して頂けるよう工夫をすれば良かったと思います。（例えばBGMなど）

#### 5. 行事やアクティビティの取り組みについて

横山さんの賀寿祝いを家全体（協力）でお祝いする事により、一つの目標に向かうことが出来、祝いが終わってから達成感を職員だけでなく皆で味わうことが出来ました。

家庭菜園では、色々な野菜を育てる過程で、ご利用者からアドバイスを頂きました。収穫時は、目で楽しみ、触感を楽しみ、舌で楽しむ事が出来ました。また、昔、自分が野菜を作っていた頃を思い出され、ご利用者同士の会話が弾んでいた様です。しかし、車椅子ご利用者の方が多いため「自分で収穫」して頂く事が出来なかったのが残念でした。

#### 6. 一年を振り返って

- ・ いろいろな活動を通して活気があった。また、職員間の報告、連絡、相談を、家ノートなど利用する事により、ご利用者の状況把握が出来、統一したケアができました。
- ・ ご家族へのお便りを偶数月に出し、ホームでの生活の様子を知らせる事はとても良かったのですが、ご家族からの反応が見られなかったのがとても残念なので、来年は、お便りで家族の方の関心がホームに向くようなお便りにしたいです。
- ・ 訴えの多い方に対する対応はその都度行って来ましたが、何も要求をされない方に対しては「何をして欲しいのか」聞いてあげる事があまりできなかったのが、工夫が必要だと感じました。

## 1. 生活全般について

レクリエーションや、ご利用者に合った生活リハビリ、お手伝いなどを積極的に取り組んできました。そのことにより、歌が好きだったり、絵を描くことが上手だったり、字がきれいだったり、面倒くさがりだったり、負けず嫌いだったり、物知りだったり、普段の生活では知ることの出来ない色々な面を知ることが出来ましたし、介護職員として、いろいろな面で勉強させられました。

また、ご利用者も前向きになり、「〇〇をやりたい」というような声が増えてくるようになり、ご利用者主体の生活が、出来るようになりました。

ご利用者が、入院され、寝たきり・経管栄養の状態で帰られ、ショックを受けたこともありました。しかし、皆が同じ気持ちで、同じ目標で（口から食べ、トイレで排泄できるようになる。）ケアを行い、スキンシップ・コミュニケーションを多く持つことにより、手や、口を動かしてくれるようになり、良い表情が見られるようになりました。

2名のご利用者と悲しいお別れもありました。他のご利用者が涙を流し思いの言葉をかけ本当の家族を見送っているようでした。一緒に生活し、共に暮らしてきたからこそできたのだと思います。介護職員も、熱いものがこみ上げてきました。お別れを通して、最後は、家族に看病して頂いたり、あまり交流がなかった兄弟達が駆けつけてくれたり、と家族の絆の大切さ、ありがたさを感じさせられました。「くつろぎの家族で良かった。」「いいたてホームで良かった。」と心から思ってもらえるような家庭を築いて行きたいと思います。

ご利用者のストレスから、暴言や、落ち着かない等という行動がどうしても冬場に多く見られます。原因としては、家族の面会などが考えられるのですが、介護職員として、声かけを多くし、見守りするなどいろいろ努力しているつもりですが、ご利用者の淋しい気持ちを埋めることができず悩んでいます。これからもいろいろ努力して行きたいと思います。

## 2. 食事について

「家」という観点から、季節の野菜、山菜など介護職員がもちより、ご利用者と一緒に下ごしらえを行い、調理し食べて頂くことで季節感を味わって頂きました。

自分達の畑があって、野菜の成長を楽しみながら、野菜を提供できれば良かったなと思いました。

食事を美味しく食べて頂くためには、食前体操や、毎食後の口腔ケアなどで、特に口の中をきれいにすることにより、残食が少なく、なんでも食べてくれています。これからも、続けて行きたいと思います。

おやつ作りは、家族からの頂き物がたくさんあり、それを食べて頂くことが多くなり、次第に回数が少なくなってしまい残念に思いました。

## 3. 排泄について

オムツ使用で入居されたご利用者も、座位が可能であれば、トイレ介助をする事により、尿意を感じ布パンツになりました。また、肌のトラブルを少なくするために、日中パットを外しているご利用者もいます。

便に執着し、何度もトイレに通われるご利用者や、便秘気味のご利用者もいます。朝、冷たい水を飲んで頂いたり、水分を多く摂取して頂いたり、スムーズな排便が出来るよう工夫してみましたが、なかなか改善できませんでした。

#### 4. 入浴について

週2回の入浴ですが、楽しく入浴して頂きました。六十〇ハップや、入浴後クリームを塗布する事により、皮膚の乾燥や、痒みがなくなったようです。

マイタオル・マイバスタオルを使用してみました。ご利用者が、着替えや、タオルを持って行くことにより、自分のタオルだと言う安心もあり、お風呂に入ることが、今までとは気分的に違うようでした。ちょっとした事でこんなに喜んでもらえるとは思いませんでした。もう少し早く取り組めばよかったと思いました。

#### 5. 行事やアクティビティの取り組みについて

運動会・音楽祭・学習発表会などに出掛け、地域との交流を深めました。また、弁当をもってドライブにも出掛けました。外出時のご利用者の顔は生き生きされており、気分転換にもなりとても喜んで頂きました。しかし、車で移動中、車の中で車椅子からずり落ちるというアクシデントがあり、車での移動には十分に気をつけたいと思います。

夏祭りや敬老会では、ご利用者からの提案で、手踊り・「きよしのズンドコ体操」を披露しました。また、クリスマスには、西棟のご利用者でハンドベル演奏をし、皆でやることの意義・達成感・喜びを味わう事が出来たように思いました。

他の家との交流会も何回か企画したところ、普段とは違った表情を見ることができ、楽しんでくれました。これからも、もう少し回数を増やし他の家との交流を深めたいと思います。

誕生会では、くつろぎの家で調理し、声かけずとも家族方が来てくれ、一緒に食事をしながらお祝いをしました。また、回を重ねる度、ご利用者・ご家族・介護職員とのコミュニケーションを取ることが出来、家庭的になるなど、ご利用者同士思いやる気持ちが深まったように思います。

#### 6. 一年を振り返って

今年1年間、くつろぎの家のご利用者から多くの事を学ぶ事が出来ました。一緒に生活することで、楽しく笑ったり・喜んだり・感動したり・泣いたり・悩んだり・悲しんだり・怒ったり・怒られたりしながら、本当の家族のように接し、介護職員としての喜び・楽しさ・感動・大変さを感じる事が出来ました。これからも、ご利用者に合ったケアをし、ご利用者主体の、ご利用者が楽しく生活出来るよう工夫して行きたいと思います。



## 平成 17 年度 やすらぎの家 生活報告書

### 1. 生活全般について

在宅に近い雰囲気作りに心がけ、ゆったりと気持ちよく生活して頂くことに重点をおいた。体調の変化だけでなく心の変化も見のがさぬように気配りし、お客様同士のトラブルが起きないように介護職員がクッション役になり過干渉緩和に努めた。

また、退居時の衣類の紛失が度々あったので、着替え時の洗濯物は、洗濯、乾燥、片付けまでをやすらぎの家の介護職員が責任をもって行い、夜間に洗濯物が出た時には夜勤者にノート記入して頂く事により、他の方の洗濯物に紛れ込むこともなくなり課題解決に繋がってきている。また、入居中のお客様に安心して過ごして頂くと共に、ご家族の方にも安心してご利用頂けるように心がけて行きたい。

### 2. 食事について

食べる楽しみを目でも味わってもらうため、刻み食や、食べにくそうな物も、料理を見て頂いてから刻むようにした。確認することにより豆腐や柔らかいものは形のまま食べて頂けた。家庭では台所に立つことがない方に、得意の腕を振るってもらいスコッチエッグや漬物、切り干し大根を作って頂き皆で美味しく食べることができた。また、皆で海苔巻きやいなり寿司を作り、作る楽しみも味わった。反面、料理のできるお客様が来たときに急に予定を立て厨房に迷惑をかけてしまった。これからは計画的に事を運びたい。

水分をとって頂くため毎食お茶と水を出し、入浴後は氷を浮かべた水を出し喜ばれている。お茶も時間を決めず随時出すようにし、こまめに水分を飲んで頂き健康面にも留意した。

### 3. 排泄について

入居された時には尿量が少なかったり、濃い色のお客様も水分を充分に取って頂く事により、尿量が増えたりきれいな色に戻ってもらえた。また、尿量が増えたことにより、尿意の訴えがあり、オムツからトイレでの排泄に移行された方もいた。本人の持てる機能を活かし、在宅ではオムツ使用のお客様も立ち上がり可能な時や、本人の訴えがあった時はリハビリパンツを使用し、トイレ介助を行いトイレでの排泄習慣に結びつく事ができた。

### 4. 入浴について

他の施設利用時も機械浴だったお客様が、立ち上がり安定していたので個浴にて入って頂いたところ、「家の風呂に入ったようだ」と、とても喜んでくれた。また、個浴のお客様を特浴のお風呂に案内すると、「温泉に来たみたいだ」喜ばれた。概念にとらわれず入浴を楽しんで頂くのも大事かもしれないと思った。

入浴を嫌がるお客様には、時間をおいてから入って頂き。家に個浴があるから、時間を気にせずお客様に合わせる事ができた。在宅では入浴できないお客様や入浴希望でショート利用されるお客様に、満足してもらえる入浴回数の見直しも必要である。

### 5. 行事やアクティビティの取り組みについて

新年会、夏祭り、敬老会、運動会など、ホーム全体の行事には積極的に参加された。特に

その時の行事食はいつも小食の人も全部食べてくれた。西棟の食事会には介護職員が、茹でたてのスパゲッティを提供し「初めて食べたがおいしかった」など食事を通して満足されたようだ。

合同レクについては参加者が少なく、久しぶりに会ったお客様同士の会話だけ弾む姿が多くみられた。体を動かすようにリハレクに取り組む予定をしていたものの、風船遊びやカラオケなど手軽なものは楽しそうに行っていたが他の物には消極的であった。

## 6. 一年を振り返って

車椅子移乗時、すり落ち、骨折する事故があった。自分でできるお客様だと安心せず、また、自立だけにとらわれず、利用中は、病気や怪我をしないよう甘えて貰う事も考慮すべきと反省させられた。また、家族の都合で本人が納得いかないままの入居は、ストレスとなり帰宅願望、徘徊、不穏、他動へと繋がっているようだ。ショートステイが楽しい、時々遊びに来たいと思える家づくりはどうすれば良いのかを常に考慮し、やすらげる家づくりを目指して行きたい。

平成17年度 いいたてホーム医務室事業報告書

1. 年間業務計画

1) ご利用者及び職員の健康管理

健康診断について	・検診率100% (年2回)
職員の自己管理について	・胃腸障害や発熱など体調不良者が多く見受けられた。
食への意識改革について	・単に栄養が摂取できればよいというものではないことから検討を要す。 ・身体にやさしい物・消化吸収まで考えた内容には及ばなかった。 ・水分補給の見直しについては、補正水を取り入れたことで意識の向上に繋がった。
健康教育について	・なんでも勉強会の定期開催によって関心を深めていった。 (経管栄養、口腔ケア、腰痛についてなど年11回開催)
受診について	・介護側と連携をとり、定期通院については看護職員の付き添いなしで可能となった。(通院状況：別表1、入院状況：別表2)  ・重症度の高いご利用者又は終末期に瀕している状況があるなかでは止むを得ないと思われる。

2) 感染症対策

感染症対策委員会について	・各部署から委員を選出してもらっているが、活動的ではなかった。 ・委員会の召集は4回、会報の発行は3回であった。 ・関心を高める工夫が必要
インフルエンザワクチンの接種	・ご利用者・職員それぞれ初回接種のみ行う。追加接種については各自とした。

3) 褥瘡対策

委員会の設置について	・介護側を主に、看護側はサポートとして活動。 ・立ち上げたばかりではあるが、次第に関心も深まっていった。 ・実際にM. Aさんの褥瘡が完治したことも背景にはあった。 ・各家から委員が臨むことについても前向きにより刺激を共有できた。
------------	--

4) 終末ケア

看取りについて	・その時々注目すべき人に皆で関わることができた。 ・点滴や吸引など、不可欠かつ慣れないことに躊躇せず取り組むスタッフに頭の下がる思いである。(例：別紙)
---------	---

5) 緊急時の対応

・これについては定期的な勉強会を開催し、繰り返し修練する以外手段がないと思われる。
・次年度への課題にすべき項目である。

(別表1)

《通院状況》

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
--	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----

男	5	7	6	4	5	5	5	4	3	2	4	3	53	36.6%
女	3	8	15	5	7	12	6	8	5	6	8	9	92	63.4%
計	8	15	21	9	12	17	11	12	8	8	12	12	145	
定期通院	4	4	13	6	3	9	6	8	7	8	6	8	82	56.6%
臨時通院	4	11	8	3	9	8	5	4	1	0	6	4	63	43.4%

(別表2)

《入院状況》

(実：実人員、日：日数)

病院	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		比率
	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	実	日	
市立	1	14			1	25	1	31	1	24	1	22											1	9	6	125	12.0%
小野田			1	13													1	13	1	14	2	33	2	54	7	127	12.2%
渡辺									1	28	1	30			2	18	2	49					1	1	7	126	12.1%
北福島	1	7	1	30																					2	37	3.6%
医大											1	14	1	21											2	35	3.4%
大町	2	26	4	95	3	47	1	30	1	10	3	47	2	89	2	71	1	31	1	31	2	30	2	51	24	558	53.8%
大泉																	1	5	1	25					2	30	2.9%
合計	4	47	6	138	4	72	2	61	3	62	6	113	3	110	4	89	5	98	3	70	4	63	6	115	50	1,038	100%
2.8人/日																											

(別紙)

《終末内容とその経過》

ひだまりの家 Iさん (享年97歳)

病名：認知症

経過：平成16年4月16日 在宅から入居となる。

平成17年4月に発熱があり受診。施設内にて暫く点滴を施され軽快。

その後大きな症状も呈さず通常の生活を送られていたが、10月8日 未明に永眠される。

なごみの家 Kさん (享年82歳)

病名：脳梗塞後遺症・狭心症・高血圧症

経過：平成15年12月27日 佐藤病院からの入居。

嚥下ではあったが、信頼関係が深まりご家族からの期待にも添えるべく最期まで施設で過ごすことができたケース。

点滴に頼ることも多かったが、スタッフが一丸となり終末ケアに挑んだ。

平成17年10月25日 吸引・酸素吸入も効なく、搬送先の済生会病院にて永眠される。

くつろぎの家 Mさん (享年91歳)

病名：脳梗塞後遺症・大腿骨骨折

経過：平成16年4月22日 在宅からの入居。

入居前、一時は胃瘻造設された経緯もあり、ベッド上の生活を余儀なくされていた。

ADLの拡大も順調に進み経口摂取可能と判断され、6月10日にはチューブの抜去が施された。

平成17年11月30日 急変。脳内出血にて渡辺病院入院。12月18日に永眠される。

くつろぎの家 Mさん (享年80歳)

病名：静脈血栓症・脳梗塞後遺症・褥瘡・糖尿病

経過：平成16年4月12日 大町病院療養型からの入居

殆ど寝たきりであったが、次第に身体機能もレベルアップされて行った。

平成17年6月6日、左下肢に静脈血栓を発症。8月24日に退院され、元の生活に戻られるが12月19日夜間に呼吸状態悪化し永眠される。

ほほえみの家 Sさん (享年84歳)

病名：脳梗塞後遺症・慢性硬膜血腫

経過：平成12年4月11日 ヨッシーランドから夫婦での入居

脳梗塞の再発作や痙攣の重積発作を起こし、渡辺病院に入退院を繰り返していた。

平成15年8月から経管栄養となる。時々見せる反応のよさに期待し、経鼻を介しての注入に違和感があり11月14日に発熱治療と胃瘻造設目的にて入院

一時は退院の予定が立ったが、急変し12月31日に永眠される。

なごみの家 Mさん (享年93歳)

病名：認知症・閉塞性動脈硬化症

経過：平成13年12月20日 在宅からの入居

特に大きな病気の既往はなし。認知症による徘徊などの問題行動著明にて施設を希望  
食事時のむせりがひどくなり、平成17年3月から経管栄養を余儀なくされる。

春以降は痰の分泌が多くなり、足の指には壊死がみられるようになる。

褥瘡もできることなく、最期は点滴を施されつつ静かに永眠される。

平成17年度 厨房事業報告書

◇重点目標

- ・ご利用者の期待感を高められるような愉しみでおいしい食事の提供に努めた。
- ・喫食状況を把握し食支援に反映させる栄養アセスメントを実施した。

◇年間実施食数

食種 食数	特養 経口食 (a)	特養 経管栄養 (b)	ショート ステイ (c)	職員食 (d)	研修食 実習生 (e)	検食 (f)	デイ サービス (g)	ボラン ティア等 (h)	家族会 敬老会 芋煮会 他 (i)
年間食数	79,477	7,193	7,355	10,473	255	1,095	6,171	75	207
1ヶ月平均	6,623	599	613	873	21	91	514		
1日平均	218	20	20	29		3	17		
年間総食数	112,301 食								

食材費総額	31,468,008 円	
1食あたりの 食材費	1食あたり 281円	
	31,468,008 円 ÷ 112,094 食 ((a) ~ (h))	
	特養	1人1日3食 842円
	デイサービス	1人1食 281円

栄養量	熱量	たんぱく質	脂質	塩分	水分
いいたてホーム	1,816Kcal	63 g	42 g	9.9g	854 g
デイサービス	608Kcal	22 g	15 g	3.3g	285 g

◇実施内容

栄養管理	17年10月から栄養ケアマネジメント実施。栄養アセスメントに基づく個別栄養管理および個別対応食提供。	
希望食	各家希望及びご利用者の誕生日希望食などその都度提供	
行事食	ホーム	百歳賀寿祝い2回、家族会、夏まつり、敬老会、芋煮会、運動会、新年会等をはじめ四季折々の各種行事食を提供。
	デイサービス	毎月行事食実施。8、9、3月は牡丹餅。その他の月は松花堂弁当膳を提供
選択食	実施回数が少なかったため来年度は積極的に取り組む。	
嗜好調査	1回。8月に実施	
給食会議	毎月実施。栄養ケアマネジメントへの取り組み、食事サービスの向上について多職種で討議、検討を行った。	
委員会	家向上委員会、褥瘡委員会、行事委員会、感染症対策委員会の一員として活動	
衛生管理	食中毒予防・安全な食事に努めた。今後も更に徹底する。	

◇事業総括

10月から栄養ケアマネジメント業務が新たに始まり“食べて治す”食事の大切さについて改めて再認識することができた。今年度は特に、体調不良・嚥下困難で食種変更となるご利用者が多く、ミキサー食や経管栄養食数増加が目立った。

水分摂取の重要性に着目し看護職員と連携しながら、電解質ゼリーに加えて厨房手作りの経

口補水液（補正水・電解質飲料水）も試行したところ、ご利用者の体調改善に繋がりやりがいを感じる事ができた。

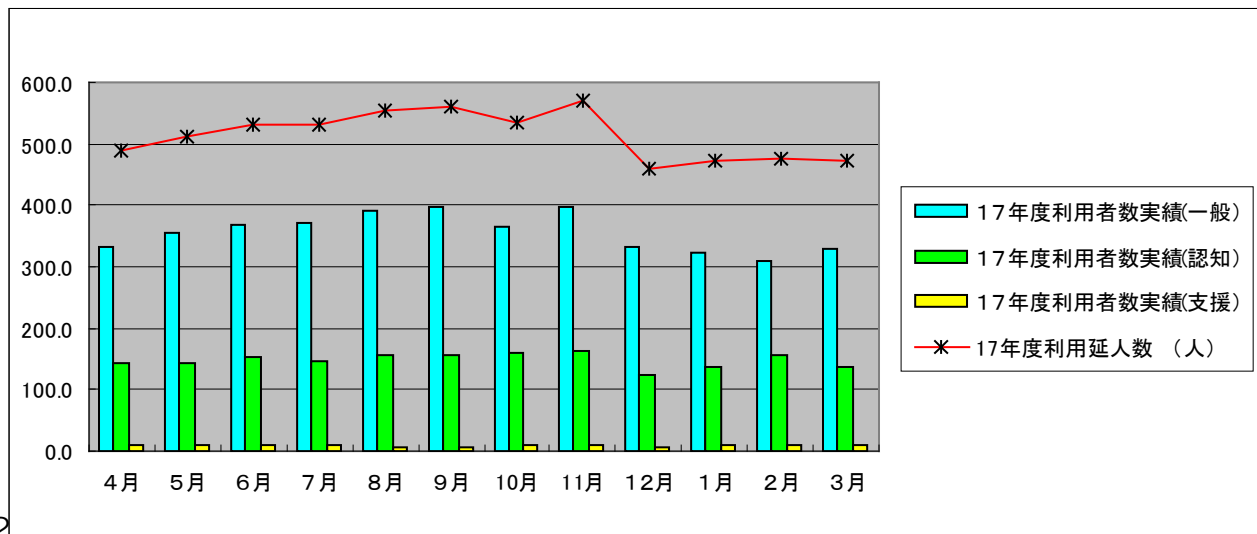
市販の高栄養食品だけに頼らず、手作り料理から栄養を摂って頂くため看護職員や介護職員と検討しながら特別メニューを追加した個別対応食提供も行い経口摂取に努めたが、まだまだ課題も多い。

ご利用者に何が必要で食べて頂くためにどうしたらよいか更なる介護食への取り組みが求められている。専門知識習得に努めチームワーク・多職種協働で利用者本位の食事サービスを追及して行く。

# 平成17年度 いいたてデイサービスセンター事業報告書

## 1. 平成17年度利用状況実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数実績（一般）	333	356	369	373	391	398	365	397	331	324	310	328	4,275
利用者数実績（認知）	145	145	152	148	155	155	159	164	123	137	157	136	1,776
利用者数実績（支援）	10	11	11	9	7	8	10	10	7	11	9	10	113
利用延人数（人）	488	512	532	530	553	561	534	571	461	472	476	474	6,164
開所日数（日）	21	22	22	21	23	22	21	22	21	21	20	23	259
平均利用者数（人・日）	23.2	23.3	24.2	25.2	24.0	25.5	25.4	26.0	22.0	22.5	23.8	20.6	23.8



## 2. 行事概要

月	日	行事内容	評価
4	26~29	花見（4日間で89名参加） 蕨平方面へ花見見学しながらドライブを楽しみました。天気も良く、長泥峠と長泥小跡地で桜をバックに記念写真を撮り、満開の桜並木に、とても「きれいだ」という声がきかれました。	送迎時の花見でしたが、ゆっくりと見学できて良かった。
	27~29	行事食（花見弁当）	華やかな彩りで、皆さん美味しく頂きました。
5	5月16~18	端午の節句 行事食（ちらし寿司）	見た目も食欲が出る、食事内容でした。



6	1 22・23	花植え 梅採り・梅漬け	<p>プランター、場所の狭さで一部分のご利用者の参加になってしまった。</p> <p>天気も良く、多くのご利用者が参加し楽しく行うことが出来た。</p>
7	26	きこり見学（食事会）25名参加	<p>きこり見学とまでは行かなかったが、レストランでの食事会は皆、和やかに貴重な時間を過ごせたと思う。</p>
8	24	きこり見学（食事会）23名参加	<p>幕の内弁当の中身が豪華で殆どのご利用者が、残さず食べました。</p>
9	22	きこり見学（食事会）25名参加	<p>食事後、施設内を見学し、楽しい時間を過ごすことができた。</p>
10	10～12	行事食	<p>刺身・天ぷら盛り合わせで美味しく頂いていました。</p>
11	7～12 16～18	紅葉見学 佐須・大倉方面へ出かけ、車窓からの紅葉の美しさに感動し、途中屏風岩の前で記念写真を撮り秋を味わうことができた。 行事食	<p>移動距離が長かったため、疲れたという声も聞かれたため、今後コースは無理なく疲れない距離にして実施したい。</p> <p>松茸ご飯・刺身・天ぷらを美味しく頂きました。</p>
12	5・13 23 5～9	リフレッシュ 冬季間、体を動かす機会の少ないご利用者に運動を通して心身のリフレッシュを図る目的で開催した。 クリスマス会 職員の催しであるクリスマス会を行いました。職員によるサンタクロースとトナカイに扮装による歌とダンスを楽しんで頂いた後、ご利用者と職員による紅白歌合戦を行う。 石ポロ坂トンネル見学	<p>徒競走・輪投げ・玉入れ等を紅白に別れて競技し、白熱した応援も入り大変好評でした。来年度は開催日を多くしたい。</p> <p>ご利用者の方が自慢の歌を披露し、大変盛り上がりました。職員の出し物に関しては、早めに内容を決めて練習をして実施したい。</p> <p>送迎時に、普段トンネルを通る機会が少ないご利用者に喜んで頂けた。</p>

12	20・21	行事食（クリスマス料理）	20日に日赤奉仕団から頂いた手作りのクリスマスケーキを、おやつ時に美味しく頂きました。
1	10 11～13	団子飾り 行事食（幕の内弁当）	飯樋地区のボランティアの方達が団子飾りを作って来て下さり、ご利用者の方と一緒に木に団子を飾りつけしました。 毎回弁当だといいなという声が聞かれました。
2	3 13～15	節分 おやつに甘納豆が出たので、それを豆の代わりに食べて頂きました。 行事食	刺身・天ぷら盛り合わせで、ご利用者に美味しいと喜ばれていた。
3	3 11～13	ひな祭り 行事食（お彼岸のぼたもち）	昼食にちらし寿司が出て、お雛様の話題で盛り上がった。 ぼたもちは皆さん大好きで残さず美味しいと言って食べていました。

#### 《食事提供時のSさんの事故の問題点と改善策》

##### ○ 事故概要

平成17年12月28日午前11時50分頃、ご利用者1名が昼食に出た餅を詰まらせたと思われ、看護師が口腔チェックやハイムリック法を施行、全身チアノーゼ状態。掃除機利用にて口腔より吸引、上半身垂れるようにし誤嚥物の排出を促す。2～3分後、全胸部より自発呼吸確認したため、即酸素呼吸開始。同時に救急車要請、救命士が自発呼吸及び心拍確認。喉頭鏡にて異物がないことを確認、そのまま渡辺病院に搬送されたものの死亡に至った。

ご家族の方へは、様態の急変時に連絡、病院にて経過説明。ご家族の型から今までの経緯について感謝の言葉を頂いた。

##### ○ 問題点（反省）

1) 職員の介助が2名だったこと。

（職員は、準備等のため動き回っており、落ち着いて見守りが出来ていなかったこと。）

2) Sさんが利用を始めて間もないことで、もっと注意深く見守りすべきだったこと。

3) 当日は、比較的介護度の軽いご利用者が多いため、気がゆるんでいたこと。

4) 慌てて正確な伝達が出来なかったこと。

##### ○ 改善策

1) 食事開始は、職員が揃ってから行う。

2) 食事提供にあたっては、再度、全ご利用者の食事状態を把握する。（特に咀嚼と嚥下状態）

3) 食事を提供する際は、側にいると嫌がるご利用者がいるため（落ち着いて食べられないという利用者もいる。）さりげなく介助や見守りを行う配慮に努める。

4) 常に危険があることを念頭に置き確認を怠らない。

5) 緊急時、そのご利用者にばかりに目が行くが、他のご利用者にも十分な配慮をする。

（当番の指示に従い、他職員は、他のご利用者の介助や見守りを行う。）

6) 緊急時に備え吸引機等を傍に準備しておく。

7) 緊急時の応急処置は看護師が行い。救急車要請はホール当番の職員が行う。

（正確な状況の伝達・家族及び関係機関への報告・応援体制を行うため。）

《全体の課題と結果》

- ・ レクリエーションについて、ビーチボールゲームは、一般型のご利用者方は楽しみにしている人が多く、ストレス解消になると、生き生きして参加する姿も見られた。一方、認知の方は眠気があったり、集中的な問題から、なかなか参加できない人も見られたため、職員が、様子を見ながら対応していかなければならないと思った。
- ・ 行事食は大変好評であるため、来年度でも実施して行く。
- ・ 村内の施設の見学、ドライブ、外食も好評なので、来年度も実施して行く。
- ・ 心肺機能の強化・ストレスの発散・集中力のアップを図るため、来年度はスポーツ吹き矢を利用し行う。

## 平成17年度 いいたてヘルパーステーション訪問介護事業報告書

### 1. 基本方針

ご利用者の心身の状況・特性を踏まえ、個々の有する身体能力に応じ、より安心して自立した生活を営むことができるよう、身体介護をはじめ生活援助、その他必要とする支援を提供してきた。また、その家族や介護者に対し、良い介護援助方法を提供し、家庭介護の一部を担うってきた。

### 2. 重点事業項目

#### ① サービス内容の質の確立

- ・ 定例会等において、様々なケースの介護及び援助方法を話し合い、統一を図ってきた。
- ・ 関連研修に積極的に参加し、フィードバックしてきた。

#### ② ニーズの把握と対応等

- ・ ケアプランに基づき、きめ細かなサービスに心がけてきた。
- ・ ご利用者の抱えているニーズを把握し、出来るだけ解決に向け支援してきた。同様に家族や介護者にも応えてきた。
- ・ なかなか連絡が取りにくい家族や介護者に対し、連絡ノートを活用し、コミュニケーションを図ってきた。
- ・ ニーズ等の内容によっては、各関係機関との連絡調整を図ってきた。

### 3. 事業内容

#### ・ 身体介護に関すること

(食事介助・入浴介助・排泄介助・清拭・体位変換・衣類の交換・その他必要な身体介護)

#### 生活に関すること

(買い物・調理・掃除・洗濯等)

#### 相談に関すること

(介護に関する相談等)

### 4. サービスの現況

#### (1) 派遣世帯(平成18年3月31日現在)

	区分	派遣世帯数	区分	派遣世帯数	合計
介護保険	寝たきり	11	一人暮らし	10	57世帯
	老夫婦	6	痴呆	14	
	その他	16			
村委託	支援費	8			8世帯

(2) 介護保険利用者状況

月	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	身体介護	家事援助	複合	合計	稼働日数	日平均利用数
4	2	7	11	7	2	4	33	288	78	76	442	26	17.0人
5	2	7	11	7	2	3	32	261	87	76	424	26	16.3人
6	3	7	10	9	3	3	35	246	110	80	436	26	16.8人
7	2	9	11	5	5	2	34	249	129	73	451	26	17.3人
8	2	9	11	5	4	3	34	249	130	81	460	27	17.0人
9	2	12	10	6	5	3	38	245	120	80	445	26	17.1人
10	3	11	9	5	6	3	37	270	137	73	480	26	18.5人
11	3	12	10	5	6	2	38	249	116	74	439	26	16.9人
12	3	11	8	5	5	3	35	237	90	76	403	26	15.5人
1	3	9	7	5	4	2	30	243	65	67	375	25	15.0人
2	2	9	8	3	4	2	28	208	69	73	350	24	14.6人
3	2	10	8	4	2	2	28	230	111	78	419	27	15.5人
合 計								2,975	1,242	907	5,124	311	16.5人

(3) 支援費ホームヘルパー訪問利用者状況（村委託）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均利用数
身体介護	14	24	32	35	36	33	34	35	32	28	12	29	344	28.7人
家事援助	30	28	28	25	27	25	23	22	22	22	17	23	292	24.3人
合計	44	52	60	60	63	58	57	57	54	50	29	52	636	53.0人

(4) 自宅入浴 入浴申請者 13名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	1日平均利用数
入浴回数	71	66	56	74	99	84	98	90	89	79	61	71	938	3.0人
稼働日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	27	311	

《 評 価 》

概ね計画どおり遂行されていたものの、移動時間において、冬季道路条件等により訪問時間に遅れ、ご利用者にご迷惑をお掛けしたことがあった。また、サービス内容や介護技術については、ミーティングで申し送りを行い質にばらつきが出ないように努めたが、生活援助の掃除や後片付けなどは、多少のばらつきが見られた。これらの観点から次年度は同じ問題を起こさないよう、改善に努めサービス提供に繋げる。

今後、顧客の確保を目指し、訪問介護体験期間を設けるなど、サービス内容を知って頂き、ご利用頂ける活動を展開して行く。

平成 17 年度 いいたてヘルパーステーション訪問入浴介護事業報告書

1. 基本方針

看護職員及び介護職員が、ご利用者個々の身体状況に応じ、適正且つ迅速安全な入浴サービスを提供してきた。

2. 重点事業項目

- ・安全且つ入浴手順の統一を図るため入浴マニュアルを活用し実施してきた。
- ・感染症予防のため、機材の徹底した消毒と感染マニュアルを活用し実施してきた。
- ・入浴にあたっては、精神面の介助として常に楽しい会話に努めてきた。
- ・温泉気分を味わって頂くために、入浴剤の種類を揃え、ご利用者の要望に応えた。

3. 事業内容

入浴提供にあたっては、ご利用者の心身の状況や家族からの聞き取りにより、サービス提供を実施

- ・看護職員によるバイタルチェックや食事摂取の聞き取り等を行い、また、ご利用者の体調不良時や入浴を拒否した場合は、入浴を中止し、清拭・部分浴に変更したりと、常にご利用者や家族と向き合いながら安全な入浴サービスに努めてきた。

4. 利用状況

月	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	稼働日数	延利用数	1日平均利用数
4	-	-	0	3	3	6	12	18日	37人	2.1人
5	-	-	0	3	2	6	11	22日	34人	1.5人
6	-	1	0	3	3	4	11	20日	33人	1.7人
7	-	1	0	2	2	3	8	16日	26人	1.6人
8	-	-	0	2	2	3	7	17日	26人	1.5人
9	-	-	0	2	2	4	8	17日	31人	1.8人
10	-	-	0	2	2	4	8	17日	33人	1.9人
11	-	-	0	1	3	4	8	15日	24人	1.6人
12	-	-	0	0	3	2	5	13日	18人	1.4人
1	-	-	0	1	3	1	5	16日	21人	1.3人
2	-	1	0	2	2	1	6	16日	19人	1.2人
3	-	-	-	2	2	3	7	24日	24人	1.0人
合 計								211日	326人	1.5人

《 評 価 》

訪問介護と同様に概ね計画とおり遂行されていた。

今年度は、例年になくご利用対象者12名のうち、亡くなられた方が6名、長期入院が3名と、ご利用者が減少していることから、次年度も居宅介護支援事業所と連絡を密にし、新規開拓や、訪問入浴の良さをアピールするため、体験入浴を実施するなど積極的に取り組むことで在宅サービスの一環を担う。

# 平成17年度いたて在宅介護支援センター指定居宅支援事業報告書

## 1. 基本方針

介護保険法に沿って業務を行ない、要介護状態となった方の「利用者本位のサービス提供」、  
「医療と福祉の総合化」及び「高齢者の自立」を支援し、介護予防・要介護状態の軽減が図  
れるよう在宅ケアを推進し、ご利用者やご家族の生活が改善され、身体的にも、精神的にも、  
社会的にも質が高められるように取り組んできた。

## 2. 重点事業項目

居宅介護支援の提供に当たっては、ご利用者の意思及び人格を尊重し常にご利用者の立場  
に立って、提供される居宅サービス等が、公正中立に行なわれるようにし、サービス事業所  
との連携に努めてきた。

- ① ご利用者の自立支援やご家族の介護負担軽減につながる居宅サービスを、適切に提供するた  
めのマネジメントを、専門性の知識を高め支援に努めてきた。
  - ・ ご利用者（そのご家族）との信頼関係を継続し、情報収集ができたことで、アセスメント  
やモニタリングが適切に行なえた。
- ② ご利用者の意向に沿ったケアプランが提供できるように、事業者と連絡調整を密に行なうた  
め、定期的にご利用者のケア検討会議を開催することで、適切なサービス提供が行なえるよう  
に努めてきた。
  - ・ 毎月第1火曜日サービス担当者会議 12回開催
  - ・ 毎月第3火曜日サービス調整会議 12回開催
  - ・ 併設されていないサービス事業者とは、「サービス照会票」を用いてご利用者のケアにつ  
いて連絡を密にすることが出来た。
- ③ 日常生活・サービス利用状況把握と評価を行い、ケアプラン変更が迅速に対応でき、業務の  
スムーズ化を図ることが出来た。
  - ・ モニタリング（ご利用者宅を月1回以上の訪問し、支援経過記録した。）
  - ・ アセスメント（3ヶ月に1回「評価表」を作成した。）

## 3. 業務内容

### ア) 給付管理業務

- (1) 要介護認定の申請等に係る援助
- (2) 重要事項の説明と同意（契約）
- (3) ニーズの把握、課題分析（アセスメント）
- (4) 居宅サービス計画（ケアプラン）の作成
- (5) サービス担当者会議による調整（利用者個人に対し6ヶ月に1回開催）
- (6) モニタリングの実施（月1回訪問）
- (7) サービス実施状況の把握（3ヶ月1回再評価実施）

(8) 給付管理票の作成と請求

イ) 給付管理業務外

(1) 介護保険制度に関する相談等

(住宅改修・福祉用具貸与等・申請方法の援助)

(2) 支援費制度導入に伴うサービス調整

(3) 苦情受付窓口を設け相談受付・処理改善を行なった。

(4) 村及び市町村との委託により、要介護認定の認定調査を行なった。

○ 平成17年度 指定居宅介護支援事業所サービス計画届出登録者数

	継続登録者数	新規登録者数	契約解消者数	給付管理提出者数
4月	184人	9人	4人	164人
5月	189人	3人	2人	165人
6月	190人	9人	2人	168人
7月	197人	11人	2人	174人
8月	206人	5人	0人	173人
9月	211人	4人	1人	175人
10月	214人	2人	3人	173人
11月	213人	0人	2人	170人
12月	211人	1人	3人	165人
1月	209人	2人	5人	160人
2月	205人	2人	0人	159人
3月	208人	5人	6人	163人
月平均	203.1人	4.4人	2.5人	167.4人

- ・ 居宅介護支援事業所への、登録者数は200人を超えているものの、実際にサービスを利用し給付管理請求まで結びつくご利用者は170人前後となっている。特に季節によってサービス利用に波が出るのは、通所介護を利用し且つ日常生活が自立しているご利用者にみられ、ケアプランも要支援者と要介護者のプラン内容に変化が来ました。

○ 平成17年度 要介護度別利用者数

(H18, 3, 1 現在)

	登録利用者	稼動利用者	登録のみ	入院中	モニタリング要
要支援	44人	42人	2人	0人	2
要介護1	59人	56人	3人	0人	3
要介護2	39人	35人	2人	2人	2
要介護3	28人	25人	1人	2人	1
要介護4	18人	17人	0人	1人	2
要介護5	17人	9人	0人	8人	2
計	205人	184人	8人	13人	12



- ・ 平成 18 年 3 月 1 日現在で、要支援者となる登録者 44 名いますが、平成 18 年 4 月から介護保険制度改正に伴い、介護予防へ移行となるご利用者のプラン変更と適切な支援が必要と感じました。

○ 平成 17 年度 要介護認定調査実績 (人)

月 日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在 宅	22	34	29	28	24	34	25	28	21	26	22	26	319
施 設	2	3	2	2	6	5	0	4	0	6	1	0	31

- ・ 要介護認定期間の延長により、認定更新者が昨年より少なくなってきましたが、月平均 26 名の認定調査を行ってきました。

○ 平成 17 年度 ケアプラン作成状況 (サービス別利用者延べ人数)

サービス種別	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
短期入所生活介護	7	47	79	84	52	71	340
訪問介護	29	113	114	66	48	32	402
訪問入浴	0	0	0	24	29	41	94
通所介護(一般)	350	321	151	106	72	4	1,004
通所介護(認知)	16	51	113	102	34	28	344
訪問看護	0	18	10	1	0	108	137

- ・ ケアプランを作成し、ご利用者の意向によりサービス利用となった実績です。この表から、要介護度別にサービス利用状況が分かり、外出タイプの通所介護は要介護度が軽度のご利用者によく、要介護度が重度のご利用者は、在宅でのサービス利用相談が多くありました。
- ・ 訪問看護サービスの利用も、病院から医学的管理が必要な状態での退院者が多く、村内に事業者がないため、村外から訪問依頼にてサービス利用に結びつけることが出来ました。

《 評 価 》

介護保険制度の流れに沿って、ケアプラン作成時の必要書類の整備や、定期的なサービス担当者会議等の開催、モニタリング・アセスメントを行ってきました。また、ご利用者の自立支援を目指しながら面接相談を行ないましたが、ご利用者のご家族の意向の相違に対しては、時間をかけながら相談や支援を実施してきました。しかし、家族間の調整は難しく、今後、面接相談研修への参加等での技術習得が必要と感じられました。

次年度からは、介護予防サービス開始にあたり、要支援者と要介護者のケアを分けることで、専門性のあるケアが行なえるように支援して行きたいと思えます。

## 平成17年度 いいたて在宅介護支援センター事業報告書

### 1. 基本方針について

相談者の範囲を要介護者に限定することなく、広く生活問題を有している要援護者に対して積極的に相談援助を行い、ニーズに対応した各種保健福祉サービスが総合的に受けられるよう調整を図るとともに、地域のさまざまな関係者のネットワークにより、介護予防マネジメントの機能を担うべく啓発、啓蒙を図ってきました。

### 2. 相談窓口

- ・通常受付 月～土曜日8:30～17:30
- ・24時間体制で実施  
(日曜・祝日及び時間外の電話受付を携帯電話に転送で対応)

### 3. 介護用品展示

約200点(ギャッチベッド、車椅子、オムツ、介護用食器等他)

### 4. 事業内容

#### ① 家族介護者支援事業(家族介護教室)

平成17年度の家族介護教室は、「足指・爪ケア事業」とタイアップした形をとり、各地区単位により開催しています。日時・開催場所・内容をできるだけ希望に応じて対応しています。内容については、「介護保険制度のしくみとサービス事業所の紹介」・「介護予防(足指・爪ケアについて)」・足指力測定・「認知症予防」を中心に実施しました。また、体験型については、高齢者の食べやすい食事作りやレクレーションを体験することによって、より高齢者を身近に感じ取ってもらうことを目的に実施致しました。

#### ○ 家族介護教室の開催日と人数等

##### 各地区巡回型

開催日	曜日	対象者	参加人数(内、男性)
平成17年5月27日	金	深谷老人クラブ	29人(6)
平成17年6月28日	火	飯樋町老人クラブ	37人(14)
平成17年7月26日	火	二枚橋・須萱老人クラブ	24人(6)
平成17年8月11日	木	小宮老人クラブ	25人(4)
平成17年9月14日	水	比曽老人クラブ	19人(5)
平成17年10月20日	木	蕨平老人クラブ	22人(6)
平成17年10月23日	日	草野七福第1.2老人クラブ	27人(3)
平成17年11月24日	木	長泥老人クラブ	15人(3)
合計			198人(47)

##### 体験型(小学生)

開催日	曜日	対象者	参加人数(男性)
平成17年6月18日	土	草野小学校4・5・6年生	16人(8)
平成17年7月2日	土	臼石小学校4・5・6年生	13人(5)
平成17年7月16日	土	飯樋小学校4・5・6年生	16人(12)
合計			45人(25)

## 学校訪問型

開催日	曜日	対象者	参加人数（男性）
平成17年9月6日	火	飯館分校2年生（生活福祉コース）	12人（5）

平成17年度介護教室 開催総数 12回 参加延べ人数 255人（うち男性77名）

### ② 家族介護者交流事業（介護者の集い）

平成17年度の介護者交流事業は、2回開催致しました。

事業を行うにあたり、対象者（要介護4・5の方を介護している方）36名全員へ実施時期の調査を行い、一泊・日帰りとの希望を取り入れ、今年度は飯坂温泉一泊と宿泊体験館「きこり」の日帰りとを利用し計2回の開催となりました。

内容としては、介護者のリフレッシュを目的としているため、ゆったりと過ごして頂く日程を組みました。介護相談や相互の意見交換、その後は食事・入浴・談話を楽しまれました。

開催日	曜日	場 所	参加人数（内容等）	
平成17年11月10日～11日	木・金	飯坂温泉（花水館） 一泊	6名	改正介護保険制度の説明及び介護相談
平成18年1月29日	日	宿泊体験館きこり 日帰り	8名	改正介護保険制度の説明及び介護相談

#### ・結 果

介護の不安や悩みなどを共有する仲間たちと交流することによって、介護に対する意識が改善されたとの報告がありました。

また、ほんのひと時ではあるが、日頃の介護から離れ、気分転換となり、解散時には晴れやかな笑顔が伺えました。「日頃の介護疲れが飛んで行った」「また明日から頑張れる」「オムツ券の補助は助かる」「少くらの自己負担があっても参加したい」「皆が同じ境遇なので気軽に話ができる」などの話が出て、今後の介護を行ってゆくための糧となってくれたものと思います。

#### ・課 題

参加対象者が36名の中での14名（39%、昨年度47%）の参加でした。今後、開催回数を増やす等気軽に参加しやすいよう工夫した開催を目指します。

### ③ 家族介護用品給付事業

要介護3、4、5の在宅介護の方を対象に介護用食器及び紙オムツの給付をしています。介護用食器については、1年間10,000円を限度に、紙オムツについては月額4,000円を限度に給付をしました。

給付内容	給付月	利用者数	給付金額	実利用対象者数	
紙おむつ	4月	1人	12,000円	45	増減
	5月	17人	138,000円	48	3
	6月	12人	70,000円	53	5
	7月	25人	222,000円	50	△3
	8月	34人	329,000円	50	0
	9月	17人	100,000円	50	0
	10月	28人	196,000円	50	0
	11月	18人	133,000円	50	0
	12月	17人	168,000円	50	0
	1月	27人	287,000円	46	△4
	2月	17人	149,000円	48	2
	3月	36人	319,000円	51	3
	合計	延べ	249人	2,123,000円	6

・結果

平成17年度においては、介護用食器の申請は無く、紙オムツについては、村内各販売店のご協力により、円滑なクーポン券利用が行われました。

課題であった入院中・入所中・死亡後のクーポン券利用への対応においては、「クーポン券利用の留意点」の周知に努め、また、介護認定期間内において3ヶ月分ずつ発行し、利用の適正化に努めました。

・課題

安易な介護用品の給付により、本人の自立度を下げることの無いよう、給付決定に当たっては、地域ケア会議において、十分な検討を行う必要があると思われます。

④ 地域ケア会議

介護予防・生活支援の観点から、効果的なサービスを総合調整する機能を有する「地域ケア会議」を開催しました。

会議メンバーは、在宅介護支援センター、訪問介護事業所、通所介護事業所、診療所看護師、飯舘村公民館、飯舘村保健福祉課、社会福祉協議会の幅広い分野からなる13名の構成で検討を行ないました。

平成17年度 開催回数：12回

ケース検討件数	114件
---------	------

検討内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護用品給付	46	6	5	2	1	2	1	0	0	0	2	3	68
ふとん乾燥消毒	0	0	0	6	3	0	0	0	0	0	0	0	9
老人日常生活用具給付等	0	0	5	0	2	0	0	1	1	0	1	1	11
高齢者快適住まいづくり助成	2	2	1	2	0	0	0	0	2	0	1	1	11
配食サービス	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	2	0	6
解決困難ケース検討	0	0	2	2	0	1	1	0	1	0	2	0	9
計	48	8	15	12	7	3	2	2	4	0	8	5	114

・結果

様々な要援護者のニーズに対し、各種の保健・福祉サービスなど社会資源を最大限に活用し、自立した生活が送れるよう援助ができました。また、生活困難な状態に陥っていると思われるケースについても対応してきました。

・課題

援助が必要と思われても本人や家族からのニーズが出されず、問題を問題と考えていないケースや隠れている問題ケースの発見・対応について検討が必要と思われる。

⑤ 各種申請代行

一人暮らし高齢者及び高齢者夫婦世帯等、緊急通報装置の設置が必要と思われる世帯へ、緊急通報装置の申請代行を行っています。

介護予防対策事業として住宅改修の申請代行及びアドバイスをしています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
老人日常生活用具給付等	0	0	5	0	2	1	0	1	1	0	1	1	12
高齢者快適住まいづくり助成	2	2	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	9

・結果

住宅改修については、事前に相談のあったケースにほぼ対応できました。ご利用者の介護保険制度や高齢者快適住まい助成事業への理解も進み、工事事業者もスムーズな手続きが行われるようになりました。

・課題

介護予防の観点から、必要性の見極めと、適切なアドバイスを行って行くことが大切である。

⑥ ふとん乾燥消毒事業

ふとんや毛布などの寝具類を洗濯する・乾すといった衛生管理が困難で、介護保険認定4・5に認定された方に対して、洗濯および乾燥・消毒のサービスを行いました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
希望件数	0	0	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10
実施件数	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	4

・ 結 果 ・ 課 題

村内要介護認定4・5の方の家庭に、サービス内容を説明・利用を勧めてきた。対象となる方約36名のほとんどの方が介護保険制度のサービス等により、ベッドおよびその付属品をレンタルされていることや、利用希望はしたものの入院などにより対象外となったりしましたが、前年度実績1件でしたが、17年度は4件の実施となることが出来ました。

⑦ 介護者の会支援

在宅介護の主たる介護者が中心となって活動し、在宅介護に関わる者、関心を持つ者が共に語り合い、情報交換・相互支援の活動を通し、関係者との連携を図り、地域福祉の向上を目指すことを目的にした団体への支援を行いました。

会員数 16名

勉強会並びに交流会の実施

開催日	曜日	場 所	参加人数（内容等）	
平成17年11月3日	木	福島市コラッセ福島	11名	講演「にんげんってね・・・」 講師 早川 一光

⑧ サービス満足度調査

ケアマネジメントの効果並びに福祉サービス利用における満足度及びご利用者や家族からの要望などを把握するため、いいたて在宅介護支援センター居宅介護支援事業所依頼登録者188人に、サービス利用に関するアンケート調査を行いました。

	質 問 内 容	十分	まあまあ	もう少し	不満	回答なし	合計
1	本人や家族の都合に合わせて訪問してくれていますか	51	17	3	1	10	82
2	本人や家族の病気や身体の状態、困った事などを聞いてくれましたか	47	24	4	2	5	82
3	本人や家族の考えや望んでいる事を、十分に聞いてくれ理解してくれましたか	49	22	4	3	4	82
4	サービスの内容には本人や家族の意向が尊重されていますか	54	14	4	4	6	82
5	サービスを利用する前に契約書や重要事項説明書について十分な説明がありましたか	66	11	3	0	2	82
6	自己負担額、保険以外のサービスの利用料金、キャンセル料について説明はありましたか	47	21	7	1	6	82
7	本人の状況を常に把握したうえで、適切なサービスを提供していると思いますか	45	27	2	2	6	82
8	苦情や相談をよく聞き、サービス改善に結びつけるなど対応してくれました	36	34	2	1	9	82
9	ケアマネージャーから、サービスを利用してみて何か困った事はないか等、月1回以上の訪問はありますか	57	12	7	0	6	82
10	職員が違って、介護の方法や手順は同じでしたか	47	20	6	4	5	82
11	サービスの利用により、介護上の問題が安定または軽減しましたか	32	32	6	3	9	82
12	職員の態度や言葉遣いは礼儀正しいですか	56	19	1	4	2	82
13	健康管理やプライバシーへの配慮がされていますか	45	22	7	1	7	82
14	健康状態の急激な変化など緊急時や事故が発生したときの対	49	22	1	0	10	82

	応や内容の報告が家族に速やかに行なわれていますか					
15	現在利用しているサービスを友人や知人に紹介したいと思いますか	思う		思わない		
		71		6		5 82
16	訪問看護サービスが飯舘村にあったら利用したいですか	はい	いいえ	分からない		
		46	4	15		17 82

・結果及び評価

質問の内容に対しまして、あらゆる分野で「満足、まあまあ」と答えられた方が80%以上占めることでは、職員一同が頑張っていると評価できると思います。しかし、反面「もう少し、不満」の評価も10%近くあることは事実であることから、今後、職員一人ひとりがより一層努力しなければならないと感じられます。

また、「もう少し、不満」の中には、サービス利用によって全ての問題が解決できると考えられているご利用者やご家族の方もおられ、サービスの利用については、やはり、ご利用者を含めたご家族の方にも理解して頂くことや協力を得ることも大切であると感じられました。

⑨ 月報集計

平成17年度の通常業務に関する月報を集計しました。

在宅介護に関する電話相談、面接を実施（相談内容：訪問・電話・来所含む）

単位：件

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
アセスメント	27	18	20	18	36	14	12	10	7	13	5	3	183
モニタリング	154	115	116	134	129	157	195	187	112	158	115	52	1,624
認定調査	17	18	20	19	19	27	18	22	20	18	17	25	240
申請代行	6	9	4	7	7	7	3	2	2	3	0	1	51

契約	1	3	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0	10
訪問介護	2	10	11	7	2	6	6	7	11	9	9	15	95
訪問入浴	2	0	3	0	0	1	2	4	4	1	2	8	27
訪問看護	0	3	10	8	1	3	9	2	3	6	3	11	59
通所介護	18	11	16	11	12	8	13	8	11	13	12	13	146
短期入所	28	36	27	21	30	32	24	27	31	30	28	31	345
福祉用具・福祉機器	13	12	21	14	13	17	12	3	12	17	11	19	164
住宅改修	1	5	16	10	9	7	5	4	8	1	5	6	77
医療・疾病	1	5	2	3	4	3	5	2	0	1	1	1	28
福祉施設関係	24	16	17	27	21	17	9	12	26	47	31	23	270
介護相談	11	6	10	11	7	10	5	9	4	14	10	18	115
生活問題	1	2	3	0	1	3	1	0	3	0	1	3	18
年金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護用品相談	11	13	5	12	9	3	32	4	0	16	1	17	123
配食サービス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	6	15	13	19	7	8	18	15	12	6	5	2	126
関係機関	役場												0
	保健所												0
	社協												0
	民協												0
	医療機関												0
	事業所												0
	その他												0
合計	323	297	314	322	310	325	369	319	266	353	256	248	3,702
1ヶ月平均相談数							308.5						

延べ件数	訪問	来訪	電話	合計
平成17年 4月	266	19	38	323
平成17年 5月	223	21	53	297
平成17年 6月	229	28	57	314
平成17年 7月	260	21	41	322
平成17年 8月	241	30	39	310
平成17年 9月	259	22	44	325
平成17年 10月	302	33	34	369
平成17年 11月	263	17	39	319
平成17年 12月	202	16	48	266
平成18年 1月	267	19	67	353
平成18年 2月	179	22	55	256
平成18年 3月	176	20	52	248
合計	2,867	268	567	3,702